

令和 7 年度 神戸市内地域組織基礎調査

婦人会

調査結果報告書

令和 8 年 3 月

神戸市

【目次】

(1) 調査概要.....	1
① 調査の目的	1
② 調査対象	1
③ 調査方法等	1
④ 調査の対象と回収状況	1
⑤ 調査結果の表示方法	2
(2) 団体の活動.....	3
① 会員数（問2）	3
② 令和元年度以降の新規会員の有無（問3）	3
③ 令和元年度以降の新規会員数（問3）	4
④ 会員募集の取り組みで効果的だったアイデア（問3）	4
⑤ 主な収入源（問4）	5
⑥ 年会費（問5）	5
⑦ 団体の活動頻度（問6）	6
⑧ 実施している活動（問7）	7
⑨ 今後特に力を入れたい活動（問7）	8
⑩ 直近3年間で縮小または中止した活動の要因（問8）	9
⑪ 直近3年間で縮小または中止した具体的な活動内容（問8）	9
(3) デジタル技術の活用	10
① デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問9）	10
② デジタル技術の導入にあたっての課題（問10）	11
③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問11）	12
(4) 他団体や外部との連携.....	13
① 他団体との連携の状況（問12）	13
② 他団体との連携した取組事例（問13）	14
③ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問14）	15
④ 外部に委託している業務（問15）	16
⑤ 外部に委託している業務の具体的な内容（問15）	16
⑥ 活動・行事を継続における優先度（問16）	17
⑦ 地域住民が活動に参加するメリット（問17）	18
(5) 活動を進めていくための課題	19
① 活動を進めていくための課題（人材面）（問18①）	19
② 活動を進めていくための課題（運営面）（問18②）.....	20
③ 活役員や中心メンバーの業務負担（問19）	21
④ 役員・スタッフの関与者を増やすためアディア（問20）	22
⑤ 若年層が婦人会に参加しない最大の理由（問21）	22
⑥ 若年層が婦人会に参加しない詳細な理由（問21）	23

(6) 団体が活動している地域の状況等	24
① 活動している地域の課題（問22）	24
② 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問23）	25
(7) 今後の活動に向けて	26
① 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問24）	26
② 市に相談したいことや支援を希望すること（問25）	27
(8) 代表の活動状況	27
① 代表の選出方法（問26）	27
② 代表になってからの年数（問27）	28
③ 団体の今後のあり方についての考え（問28）	28
④ 地域活動の担い手として参加したきっかけ（問29）	29
⑤ 地域活動のための月間活動日数（問30）	29
⑥ 会長として特に感じる負担と行政に支援してもらい分野（問31）	30
⑦ 他団体や地域住民に勧めたい活動（問32）	30
(9) 代表の状況	31
① 代表（回答者）の状況-年代（問33）	31
② 代表（回答者）の状況-現在の地域（小学校区）での居住年数（問33）	31
③ 代表（回答者）の状況-就業状況（問33）	32
(10) 自由意見（その他）	33
① 主な収入源（問4）	33
② 実施している活動/休止している活動/今後力を入れたい活動（問7）	33
③ デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問9）	33
④ 地域住民が活動に参加するメリット（問17）	33
⑤ 活動を進めていくための課題（運営面）（問18②）	33
⑥ 活役員や中心メンバーの業務負担（問19）	33
⑦ 役員・スタッフの関与者を増やすためアディア（問20）	34
⑧ 活動している地域の課題（問22）	34
⑨ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問23）	34

(1) 調査概要

① 調査の目的

神戸市では、おおむね3年ごとに、市内で活動されている地域組織のみなさまの活動実態及び課題などを把握するためアンケート調査を実施している。

前回の調査（令和元年度）以降、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、対面での活動が制限されたり、感染防止対策が必要となるなど、地域活動の実施にあたっては様々な工夫をされるとともに、様々な地域課題への対応や、デジタル技術の活用等、新たな取組にもチャレンジされていると考えられる。そこで、地域組織の活動に携わっている市民の取り組みや感じていることを把握し、今後の施策に活用する。

② 調査対象

下記の団体を対象とする。

	概要	備考
婦人会	小学校区を単位として組織され、会員としての自覚と誇りを持ち、常に自己研鑽に努めながら、住み良い地域づくりを目指し活動が続けている。これまでの活動の積み重ねにより培った地域との関係や経験を若い世代に繋げ、地域活動の担い手を育成するとともに、子育て世帯を応援し、一緒になって様々な課題に取り組んでいる。	全ての団体を調査対象とした。

③ 調査方法等

調査方法	調査対象団体の代表者に調査票を郵送配付し、返送又はWeb回答で回収した。
調査期間	令和8年2月17日（火）～2月27日（金）Web回答〔3月5日（木）〕

④ 調査の対象と回収状況

	発送数	未着数	有効発送数	有効回収数	回収率
全市	87	0	87	67	77.0%
東灘区	8	0	8	3	37.5%
灘区	11	0	11	10	90.9%
中央区	14	0	14	11	78.6%
兵庫区	7	0	7	3	42.9%
北区	12	0	12	10	83.3%
長田区	4	0	4	9	225.0%
須磨区	12	0	12	3	25.0%
垂水区	4	0	4	4	100.0%
西区	15	0	15	4	26.7%
不明	0	0	0	10	

⑤ 調査結果の表示方法

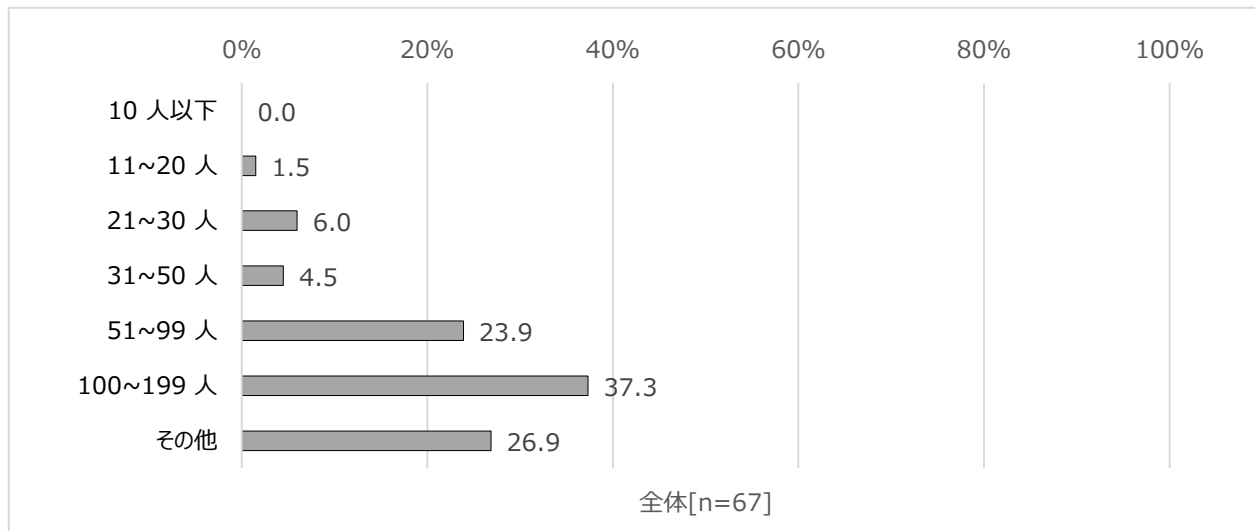
- ・ 比率は、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までの百分率（％）で表しています。このため、合計が100%にならない場合もあります。
- ・ 各設問のサンプルサイズは、“n = ●”として記載しています。
- ・ 〔複数回答〕とある設問は、2 つ以上の選択肢を回答することが可能な設問です。このため、各回答の合計比率が100%を超える場合があります。

(2) 団体の活動

① 会員数（問 2）

会員数は、「100～499人」が37.3%と最も多く、次いで「その他」が26.9%、「51～99人」が23.9%などとなっている。

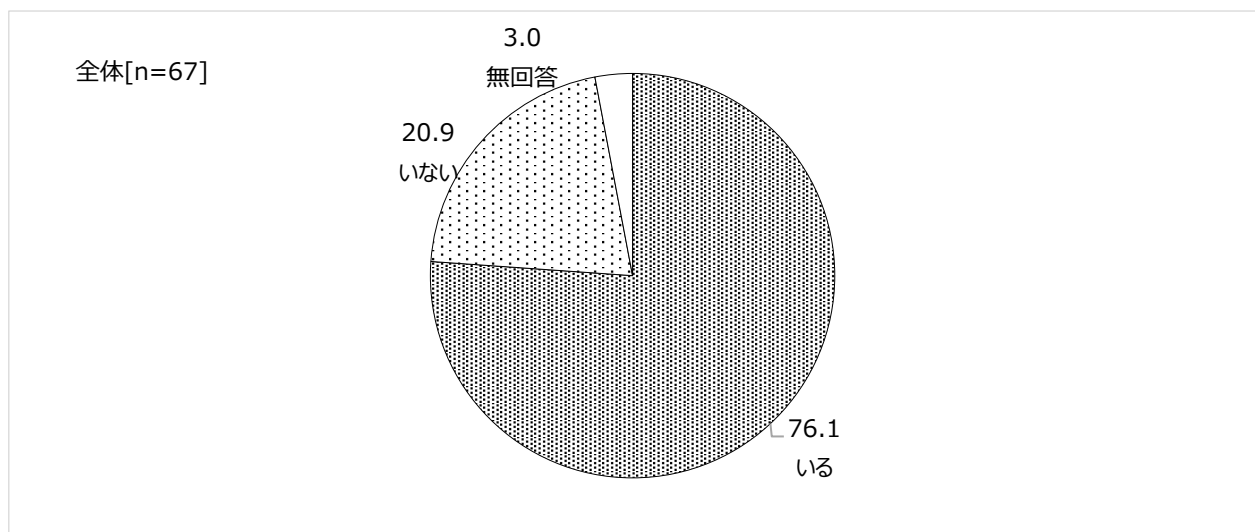
図表 1 会員数



② 令和元年度以降の新規会員の有無（問 3）

令和元年度以降の新規会員の有無は、「いる」が76.1%、「いない」が20.9%となっている。

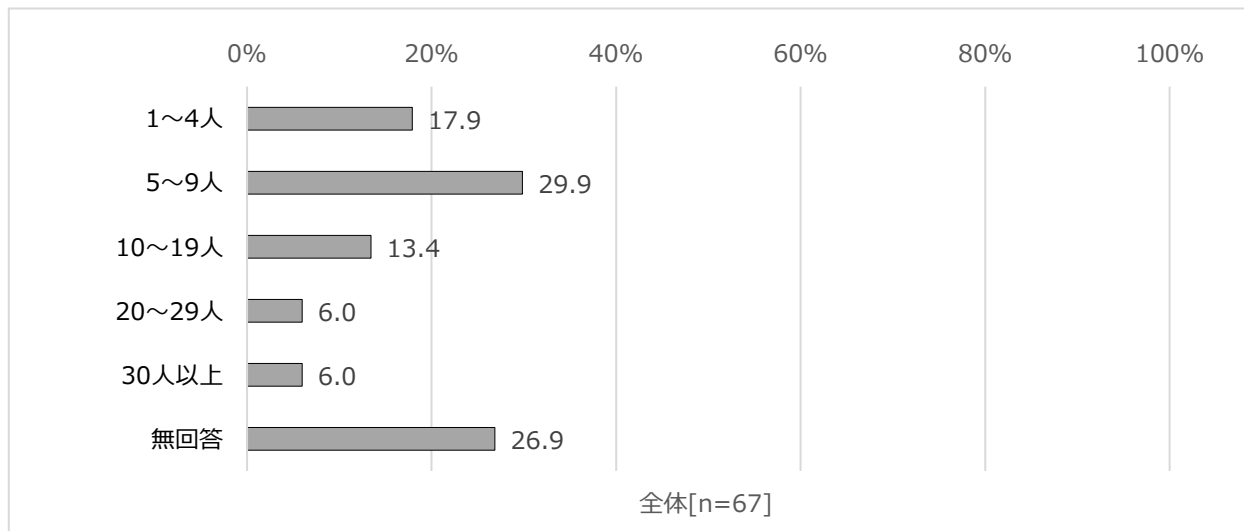
図表 2 令和元年度以降の新規会員の有無



③ 令和元年度以降の新規会員数（問 3）

令和元年度以降の新規会員数は、「5～9人」が29.9%と最も多く、次いで「1～4人」が17.9%、「10～19人」が13.4%などとなっている。

図表 3 令和元年度以降の新規会員数



④ 会員募集の取り組みで効果的だったアイデア（問 3）

会員募集の取り組みで効果的だったアイデアは、次のような回答があげられた。

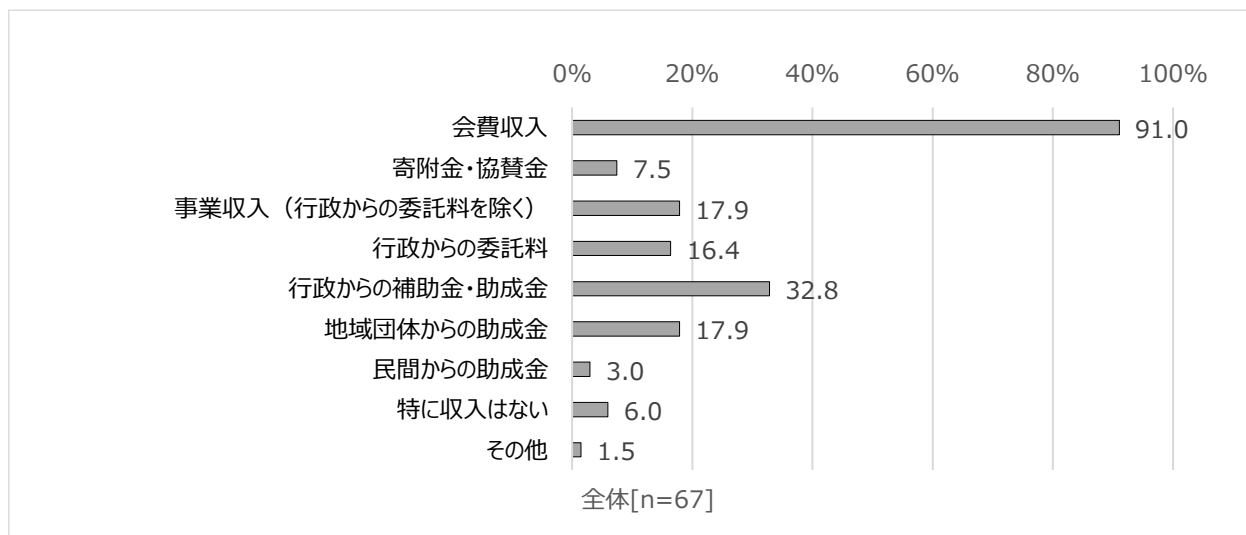
図表 4 会員募集の取り組みで効果的だったアイデア

カテゴリ	会員募集の取り組みで、効果的だったアイデア
会員募集の広報活動	地域全体に婦人会の募集チラシを配布・婦人会ポスターの掲示
	神戸まつり総踊り出演の募集掲示
	国勢調査などの機会を活用した接点づくり
口コミ	会員からの紹介・お誘い・知り合いを通じて入会依頼
	以前のボランティア仲間からの紹介
	地域行事を通じて知り合いになったことがきっかけ
	人間関係・顔見知りからの自然な勧誘・
	いろんな会合に出て知り合いを増やす
クラブ活動	グラウンドゴルフ、民踊、カルタなどの活動充実
	フラダンスなど安価で参加できるクラブ
	英語教室（わくわく英語）、かるた
	指ヨガ、手芸、ランチ喫茶などの活動
	クラブ活動への参加をきっかけに入会
きっかけをつくる	夏祭り・盆踊りでの声かけ・地域行事での交流からの入会
	エコツアー・旅行・親睦イベント
	楽しめる集まりの場づくり
	子ども食堂・給食会のお手伝いへの誘い
	訪問による直接勧誘
	デイサービスへの呼びかけ
	ボランティア活動への参加をきっかけに入会

⑤ 主な収入源（問４）

主な収入源は、「会費収入」が91.0%と最も多く、次いで「行政からの補助金・助成金」が32.8%、「事業収入（行政からの委託料を除く）」が17.9%などとなっている。

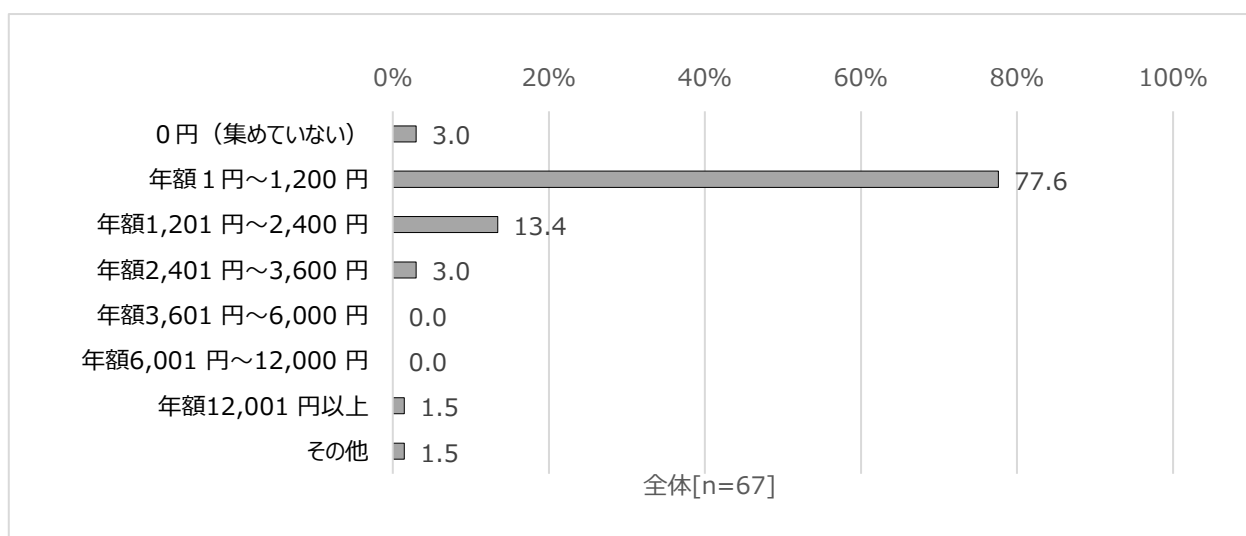
図表 5 主な収入源〔複数回答〕



⑥ 年会費（問５）

年会費は、「年額 1 円～1,200 円」が77.6%と最も多く、次いで「年額1,201 円～2,400 円」が13.4%などとなっている。

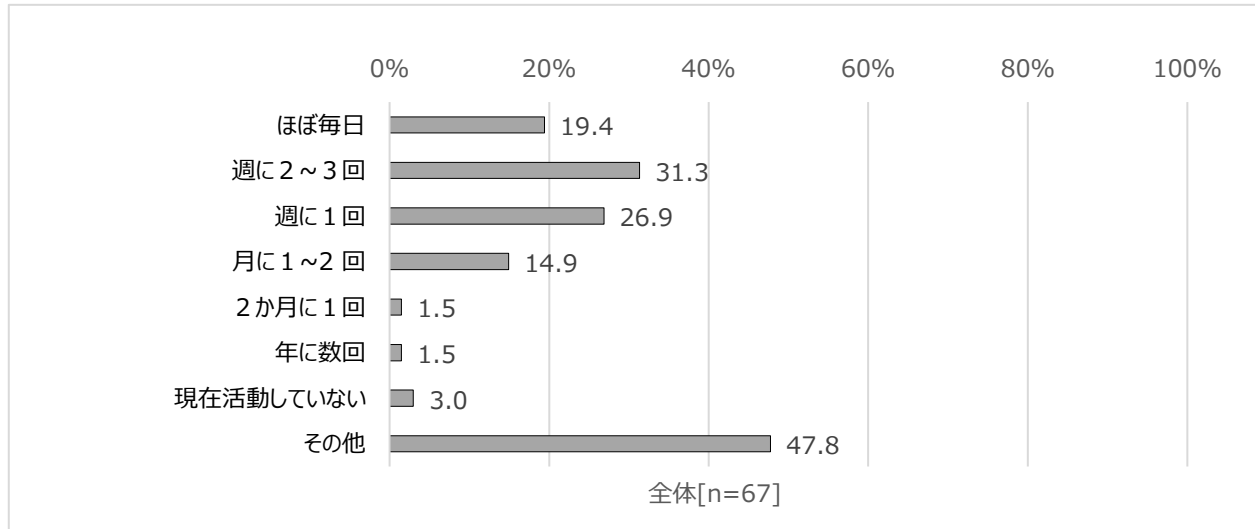
図表 6 年会費



⑦ 団体の活動頻度（問6）

団体の活動頻度は、「その他」が47.8%と最も多く、次いで「週に2～3回」が31.3%、「週に1回」が26.9%などとなっている。

図表 7 団体の活動頻度

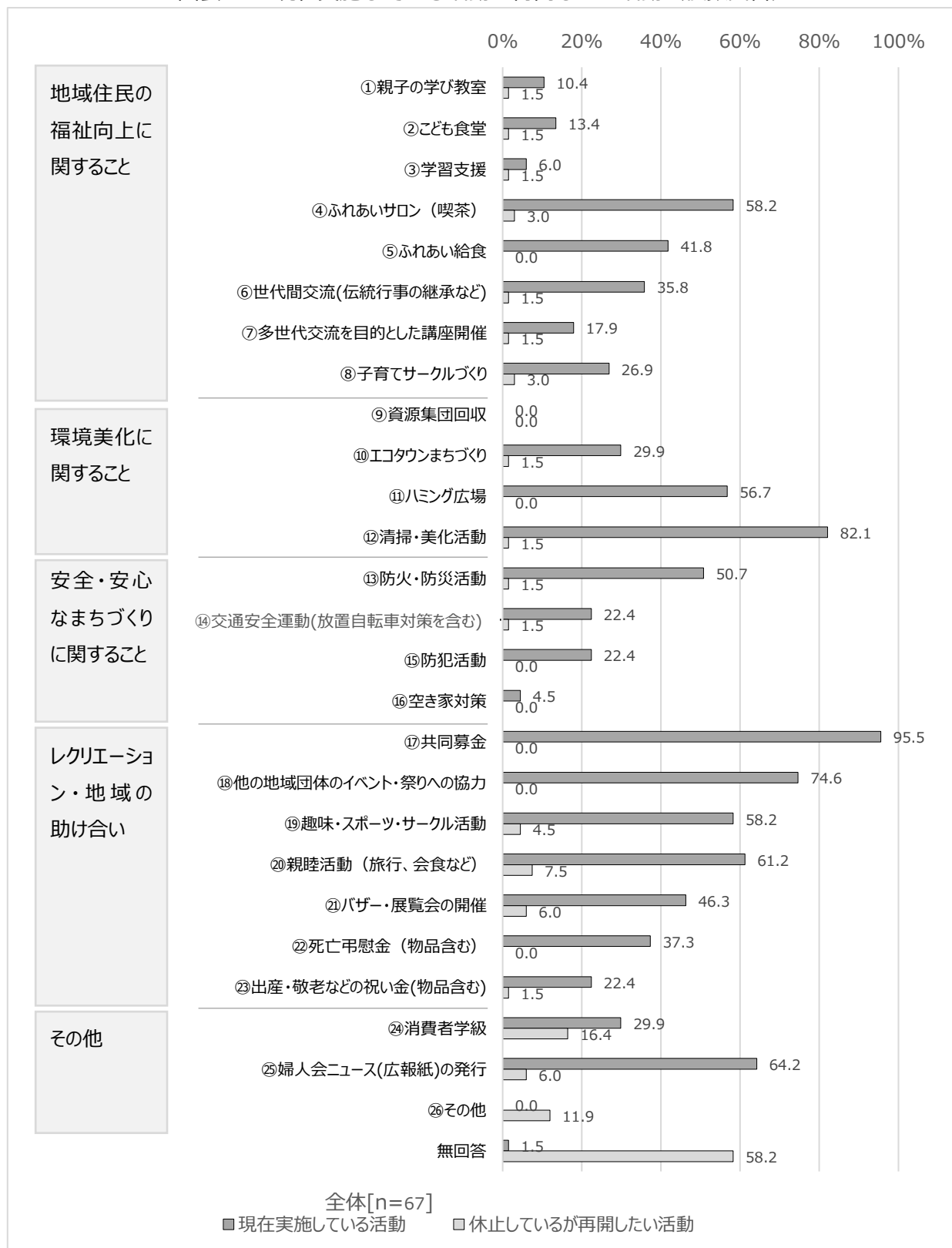


⑧ 実施している活動（問7）

現在実施している活動は、「⑰共同募金」が95.5%と最も多く、次いで「⑫清掃・美化活動」が82.1%、「⑱他の地域団体のイベント・祭りへの協力」が74.6%などとなっている。

休止しているが再開したい活動は、「②消費者学級」が16.4%と最も多く、次いで「②⑥その他」が11.9%などとなっている。

図表 8 現在実施している活動と再開したい活動〔複数回答〕



⑨今後特に力を入れたい活動（問7）

今後特に力を入れたい活動は、「⑦ 多世代交流を目的とした講座開催」が13.4%と最も多く、次いで「② こども食堂」と「⑥ 世代間交流(伝統行事の継承など)」が11.9%などとなっている。

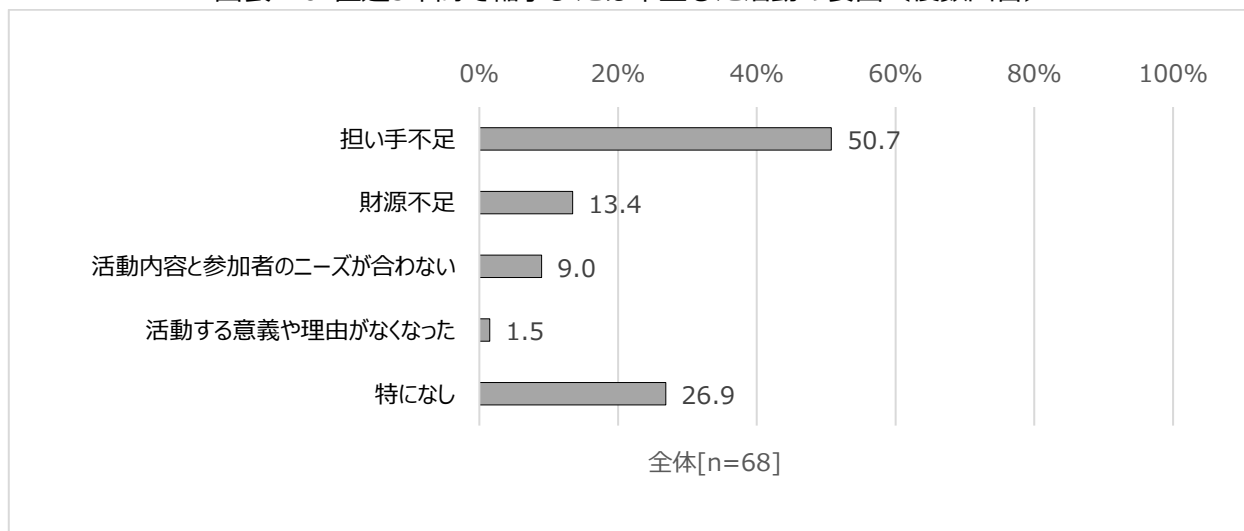
図表 9 今後特に力を入れたい活動〔複数回答〕



⑩直近 3 年間で縮小または中止した活動の要因（問 8）

直近3年間で縮小または中止した活動の要因は「担い手不足」が50.7%と最も多く、次いで「特になし」が26.9%、「財源不足」が13.4%などとなっている。

図表 10 直近3年間で縮小または中止した活動の要因〔複数回答〕



⑪直近 3 年間で縮小または中止した具体的な活動内容（問 8）

図表 11 直近3年間で縮小または中止した具体的な活動内容

質問に対する有効な回答はなかった

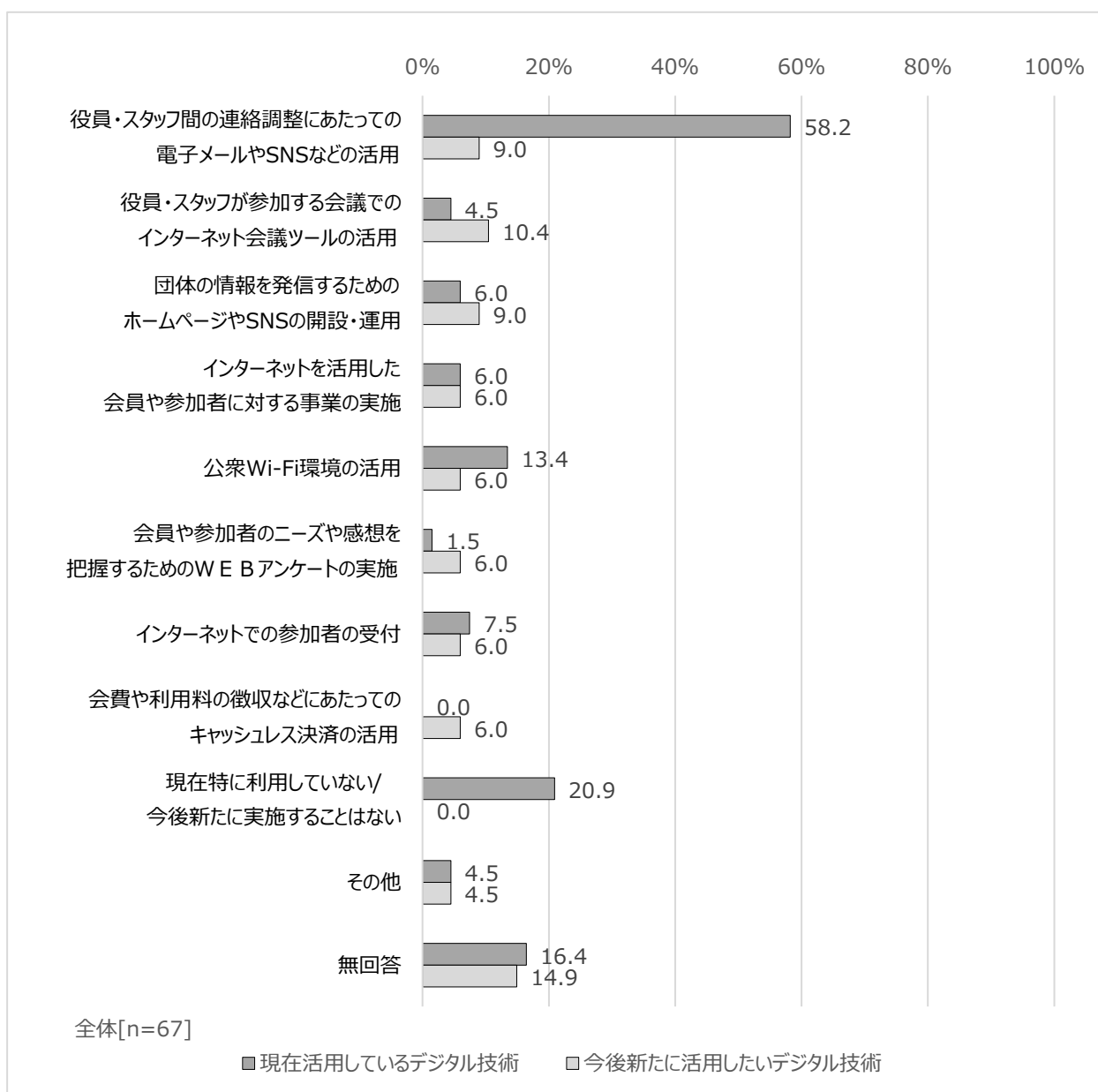
(3) デジタル技術の活用

①デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問9）

現在活用しているデジタル技術は、「役員・スタッフ間の連絡調整にあたっての電子メールやSNS等の活用」が58.2%と最も多く、次いで「現在特に利用していない」が20.9%、「公衆Wi-Fi環境の活用」が13.4%などとなっている。

今後新たに活用したいデジタル技術は、「役員・スタッフが参加する会議でのインターネット会議ツールの活用」が10.4%と最も多く、次いで「役員・スタッフ間の連絡調整にあたっての電子メールやSNSなどの活用」と「団体の情報を発信するためのホームページやSNSの開設・運用」が9.0%などとなっている。

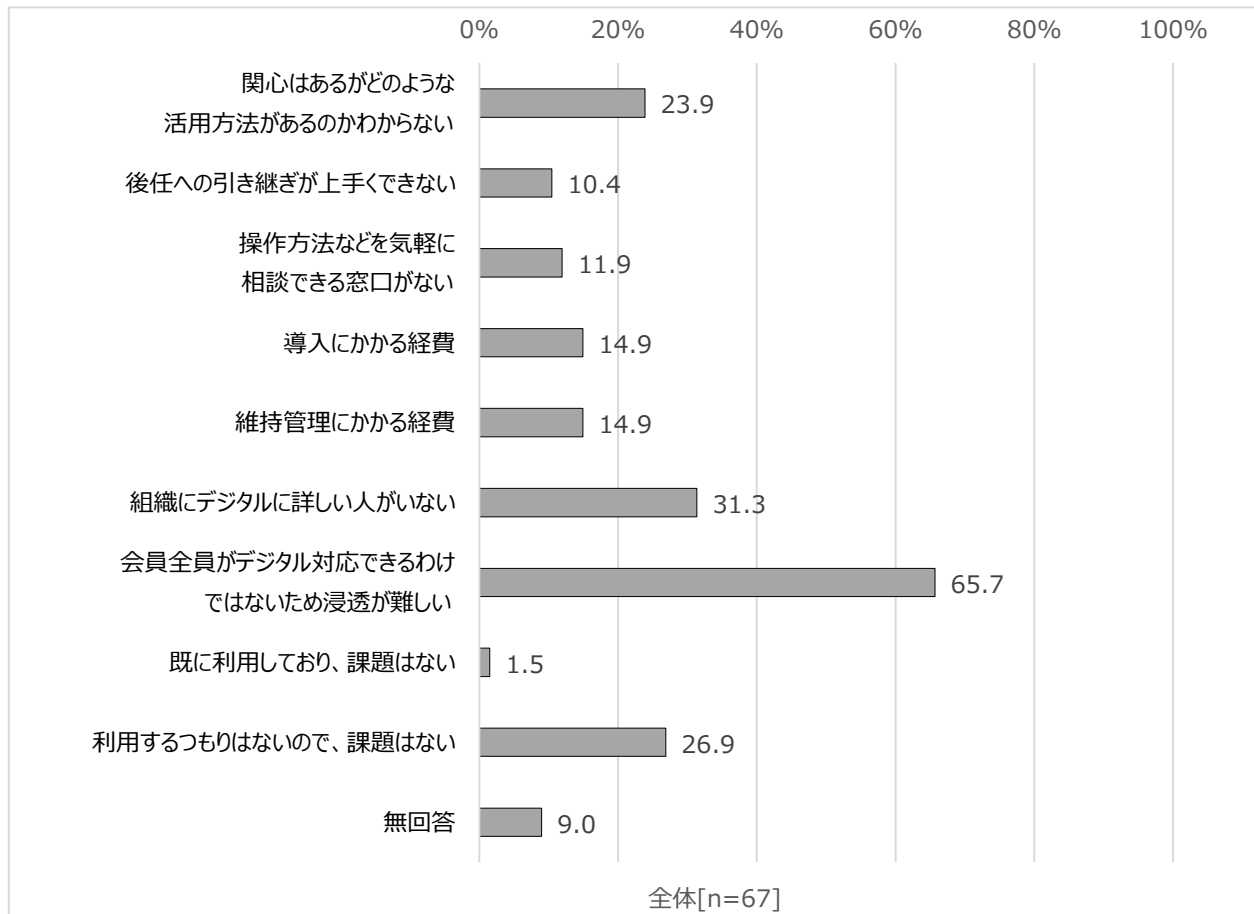
図表 12 デジタル技術の活用状況と今後の活用意向〔複数回答〕



②デジタル技術の導入にあたっての課題（問 10）

デジタル技術の導入にあたっての課題は、「会員全員がデジタル対応できるわけではないため浸透が難しい」が 65.7%と最も多く、次いで「組織にデジタルに詳しい人がいない」が 31.3%、「利用するつもりはないので、課題はない」が 26.9%などとなっている。

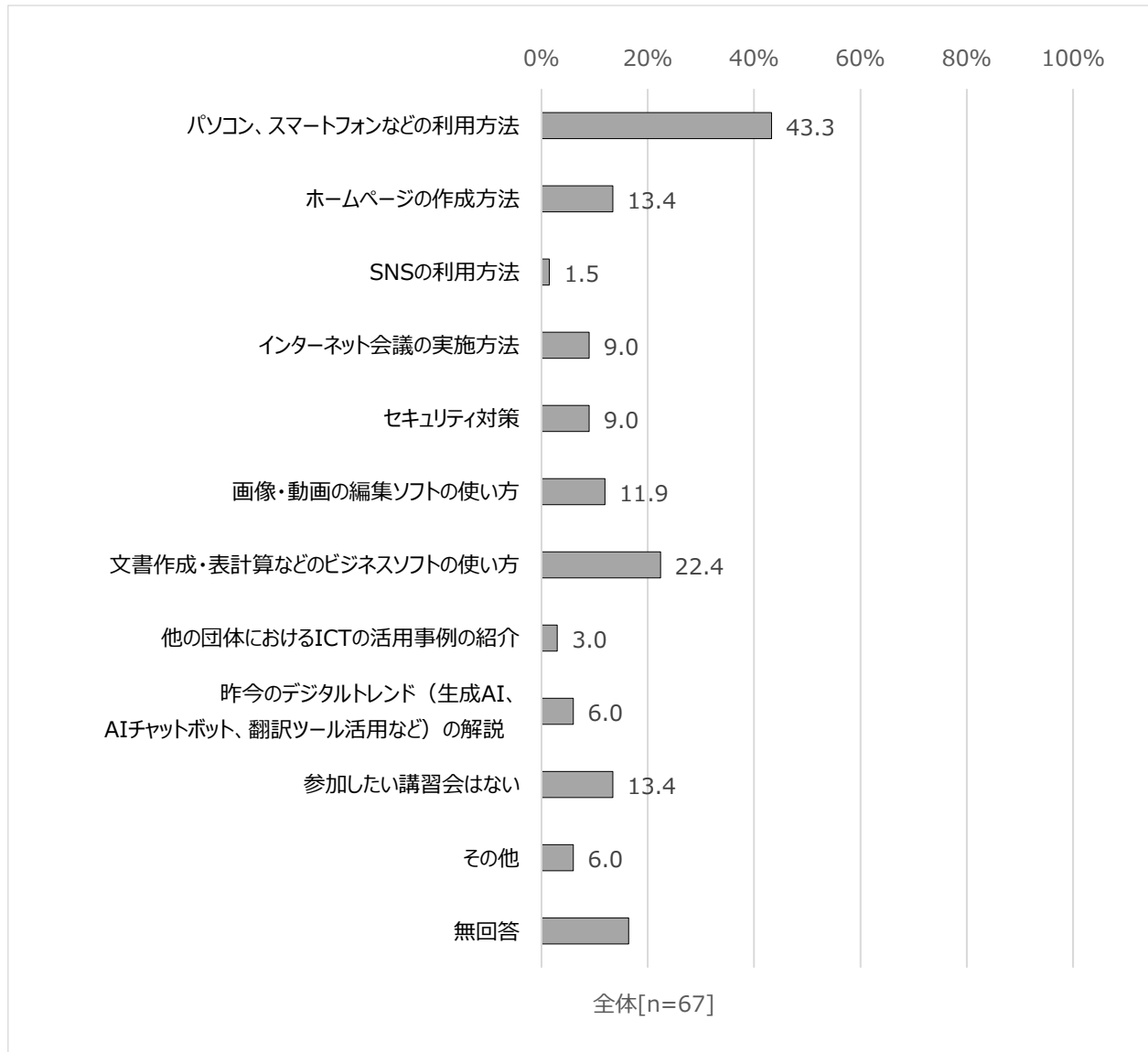
図表 13 デジタル技術の導入にあたっての課題〔複数回答〕



③ デジタル技術活用のために参加したい講習会（問 11）

デジタル技術活用のために参加したい講習会は、「パソコン、スマートフォン等の利用方法」が43.3%と最も多く、次いで「文書作成・表計算等のビジネスソフトの使い方」が22.4%、「ホームページの作成方法」と「参加したい講習会はない」が13.4%などとなっている。

図表 14 デジタル技術活用のために参加したい講習会〔複数回答〕



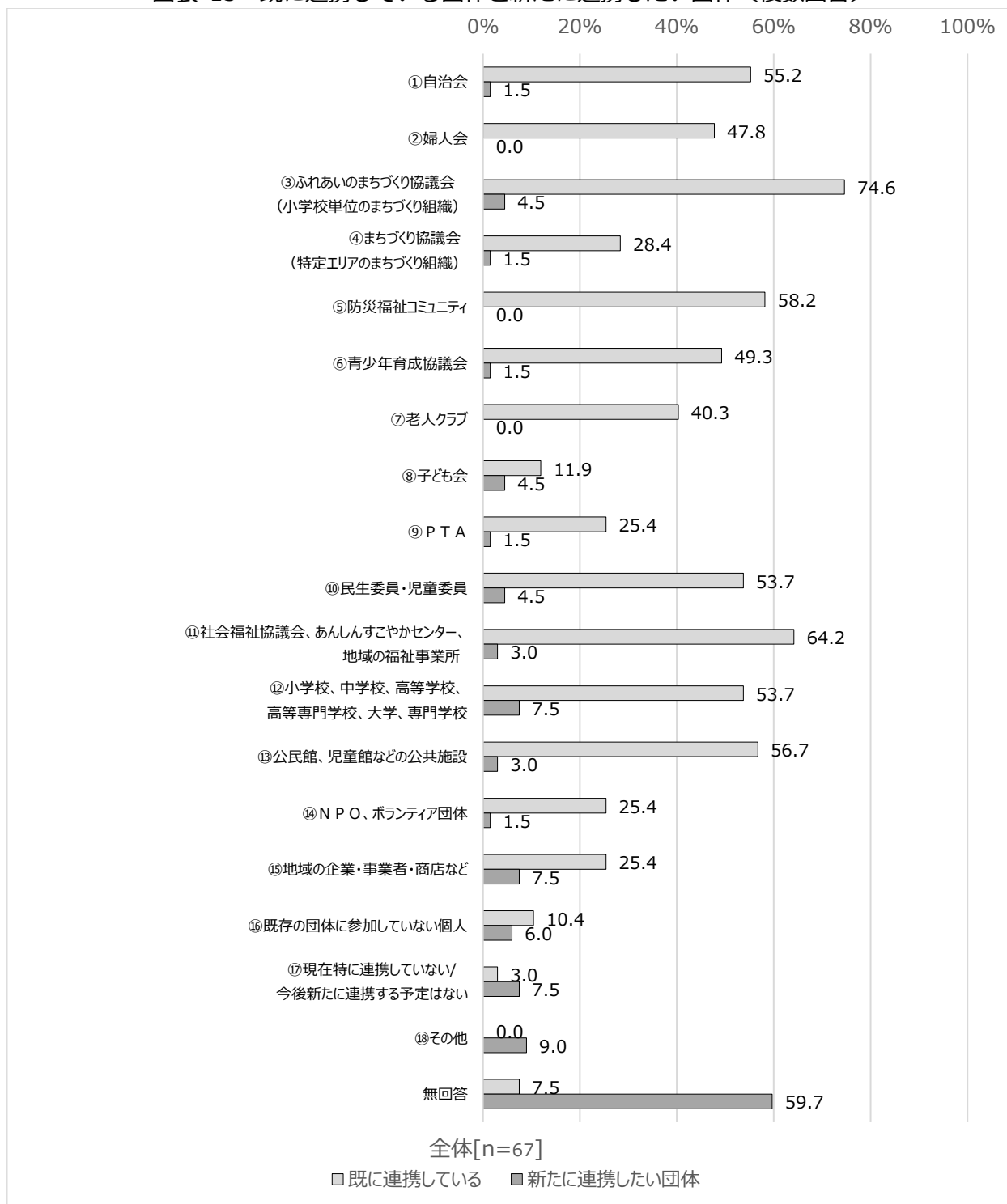
(4) 他団体や外部との連携

① 他団体との連携の状況（問 12）

既に連携している団体は、「③ふれあいまちづくり協議会（小学校単位のまちづくり組織）」が74.6%と最も多く、次いで「⑪社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、地域の福祉事業所」が64.2%、「⑤防災福祉コミュニティ」が58.2%などとなっている。

新たに連携したい団体は、「⑱その他」が9.0%と最も多くなっている。

図表 15 既に連携している団体と新たに連携したい団体〔複数回答〕



②他団体との連携した取組事例（問 13）

他団体と連携した取組として、次のような取組事例があげられた。

図表 16 他団体と連携した取組事例

連携先	他団体と連携した取組
自治体	夏祭り・盆踊り・文化祭の共同開催（飲食提供・出店・運営）
	防災訓練・避難訓練の共同実施
	交通安全・見守り活動（登下校・夜間パトロール）
	広報誌配布の協力
	餅つき大会・給食会・地域イベントの共催
婦人会	ふれあい喫茶・給食会の運営中心
	地域イベント（餅つき・祭り）への参加・支援
	親子交流イベントの実施・多団体イベントへの運営協力
他のふれまち協	夏祭り・カーニバル・餅つき大会の共催
	高齢者向け給食・喫茶の共同運営
	防災訓練・1.17 関連行事の実施
	子育てサークル・交流イベントの共同企画
	河川清掃など環境活動の連携
まちづくり協議会	地域イベント（祭り・フェス）の共同企画運営
	子育て支援（工作・紙芝居など）
	フレイル予防・健康活動の企画
	全行事への役員参加による一体運営
防災福祉コミュニティ	防災訓練・炊き出し訓練の実施
	安否確認・防犯パトロール
	1.17 関連の防災啓発活動
青少年育成協議会	登下校見守り・あいさつ運動
	クリーン作戦の実施
	中学生の職業体験（トライやる）受け入れ
	子ども向けイベント（ハロウィン・料理など）
老人クラブ	歌・レクリエーション活動の共同実施
	高齢者向けイベントの共同開催
	ふれまちとの交流活動
子ども会	盆踊り・地域行事への参加
	子ども向けイベントの運営
PTA	登校時見守り活動・交通安全・自転車教室
	学校イベント連携（保護者参加型）
民生・児童委員	ふれあい給食会・喫茶の運営支援
	高齢者見守り・会食会
	防災・地域イベントの運営協力・共同募金活動
社協・福祉施設等	喫茶・相談支援（社会福祉協議会）
	高齢者施設でのボランティア（祭り・喫茶）
	地域福祉イベントへの参加（カーニバル等）
学校	防災訓練（小学生と共同）
	昔遊び・文化伝承（折り紙・盆踊りなど）
	トライやるウィーク受け入れ・入学式・卒業式などの地域参加
	防災ずきん作成など共同作業

公民館・児童館等	子どもイベント（紙飛行機・名札づくり等）
	子育てコミュニティ事業（しめ縄・ひなまつり）
	水遊びイベントなどの場提供
NPO 等	古墳祭り・地域フェスの開催
	子育て・地域イベントへの協力
	外国人交流イベントの実施
事業者・商店等	マルシェ・バザーの実施
	地域イベント（料理教室・飲食提供）
	地域カーニバルへの協賛・参加
	クリーンクラブ等との環境活動

③ 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）（問 14）

他団体と今後連携して実現したいこと（アイデア）として次のような回答があげられた。

図表 17 他団体と連携して実現したいこと（アイデア）

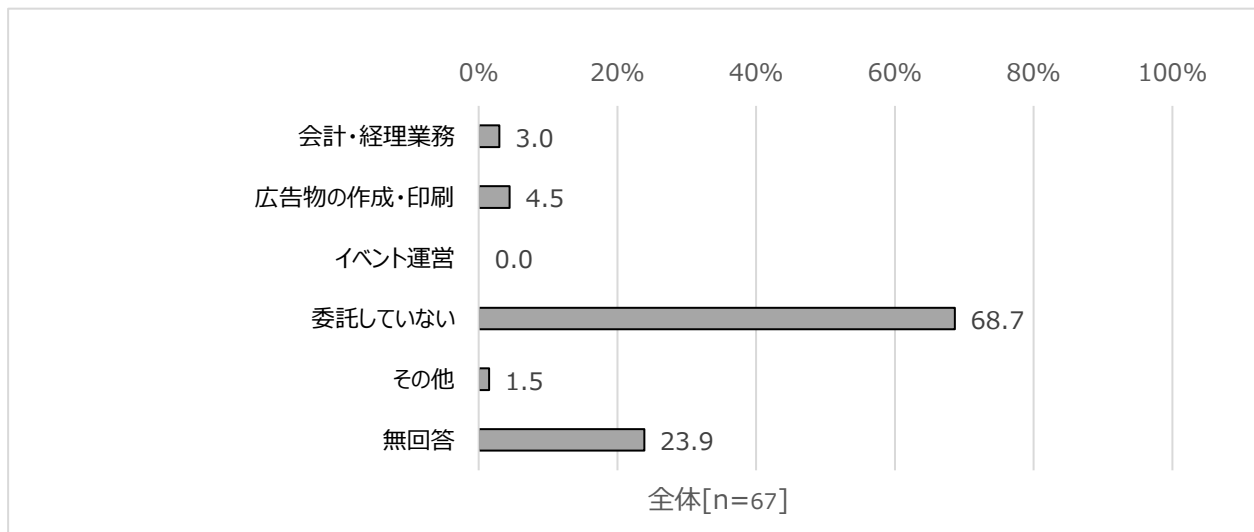
連携先	他団体と連携した取組
自治会	地域活性化に向けたイベントの共同実施
	防災活動（地域住民との連携強化）
	既存行事の継続・維持（盆踊り等の伝統行事含む）
他のふれまち協	地域代表者が集まる場を活かした活動推進
	他地域との連携による活動の広がり
	既存のふれあい事業（ふれあいキッチン等）の継続・拡充
まちづくり協議会	地域の魅力発信活動の支援・連携
	コミュニティ内外をつなぐ取り組み（例：みらい隊との連携）
防災福祉コミュニティ	地域住民と連携した防災活動の推進
	見守りや助け合い体制の強化
青少年育成協議会	子ども・若者が参加できるイベントの企画
	地域行事の共有・活性化
	中高生の居場所づくり
老人クラブ	子どもや保護者との交流機会の創出
	多世代交流の推進
	高齢者同士に偏らないコミュニティづくり
子ども会	盆踊りなど地域文化の継承・普及
	子ども主体のイベント（みこしづくり等）の実施
民生・児童委員	高齢者の見守り活動の強化
	子どもから高齢者までの情報を活かした交流機会の創出
	多世代交流イベントの実施
社協・福祉施設等	高齢者施設と子ども（幼稚園児等）との交流
	福祉視点での地域連携強化
学校	伝統文化（音頭など）の継承・普及
	学校と地域の連携による教育・交流活動の推進
公民館・児童館等	子どもとの交流活動（茶道教室、昔遊び等）
	ふれあいキッチンなど共同事業の継続・拡充
NPO 等	多世代が参加できる交流の場づくり
	高齢者中心になりがちな活動の多様化
事業者・商店等	商店街や企業とのコラボイベントの実施

	地域資源を活かしたにぎわい創出
	観光協会等と連携した地域の魅力発信
	学校施設の維持管理支援（芝生管理など）

④外部に委託している業務（問 15）

外部に委託している業務は、「委託していない」が 68.7%と最も多く、次いで「広告物の作成・印刷」が 4.5%などとなっている。

図表 18 外部に委託している業務



⑤外部に委託している業務の具体的な内容（問 15）

外部に委託している業務の具体的な内容は、次のような回答があげられた。

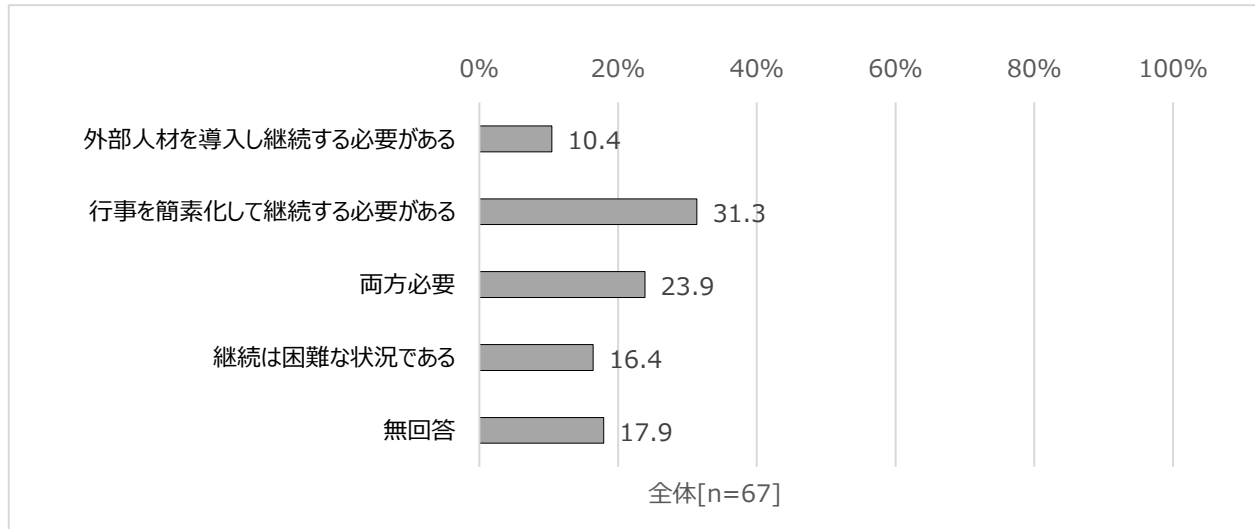
図表 19 外部に委託している業務の具体的な内容

委託内容	詳細
会計・経理業務	NPO でのデイサービスの代表もしているので
広告物の作成・印刷	カレンダー等の印刷物
その他	社会福祉協議会に相談し太極拳を推進

⑥活動・行事を継続における優先度（問 16）

活動・行事を継続における優先度は、「行事を簡素化して継続する必要がある」31.3%と最も多く、次いで「両方必要」が23.9%、「継続は困難な状況である」が16.4%などとなっている。

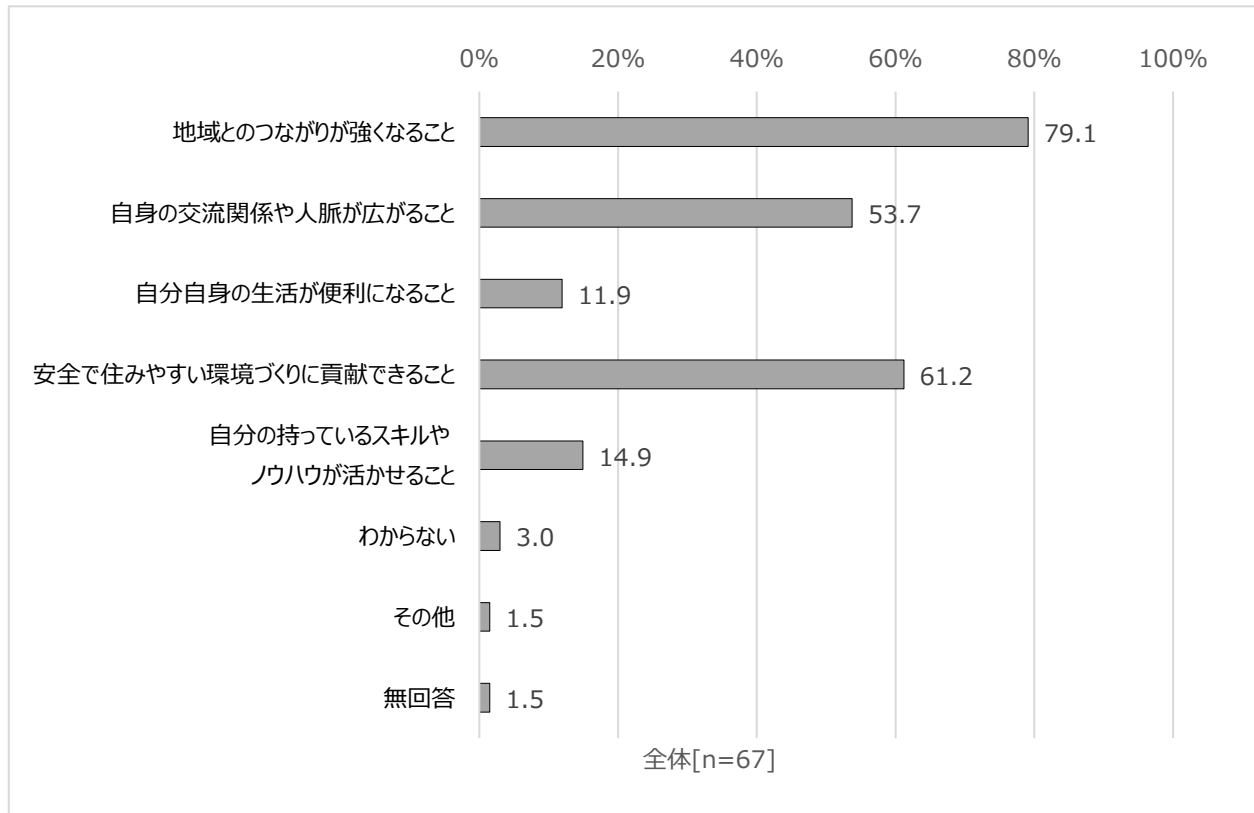
図表 20 活動・行事を継続における優先度〔複数回答〕



⑦地域住民が活動に参加するメリット（問 17）

地域住民が活動に参加するメリットは、「地域とのつながりが強くなること」が 79.1%と最も多く、「安全で住みやすい環境づくりに貢献できること」が 61.2%、「自身の交流関係や人脈が広がること」が 53.7%などとなっている。

図表 21 地域住民が活動に参加するメリット

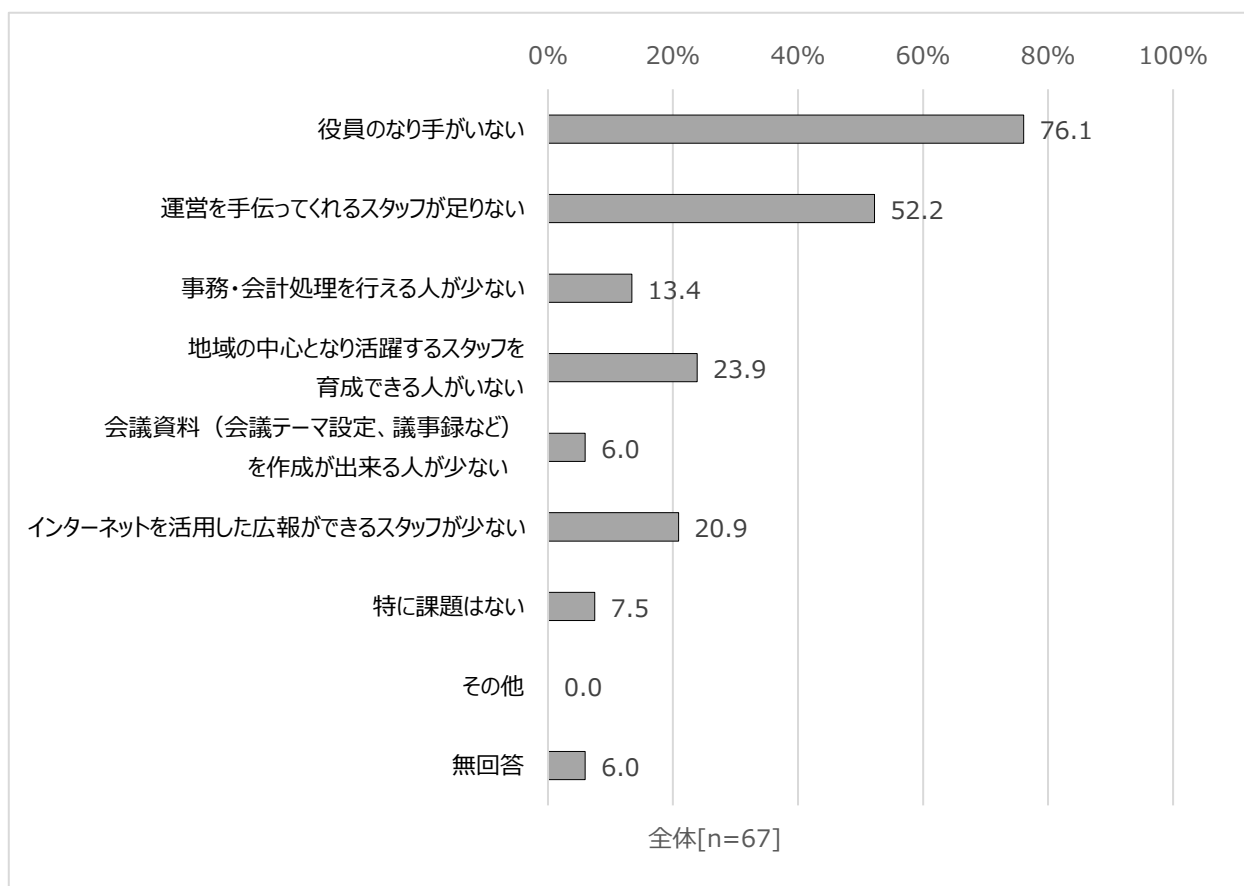


(5) 活動を進めていくための課題

①活動を進めていくための課題（人材面）（問 18①）

活動を進めていくための課題（人材面）は、「役員のなり手がいない」が76.1%と最も多く、次いで「運営を手伝ってくれるスタッフが足りない」が52.2%、「地域の中心となり活躍するスタッフを育成できる人がいない」が23.9%などとなっている。

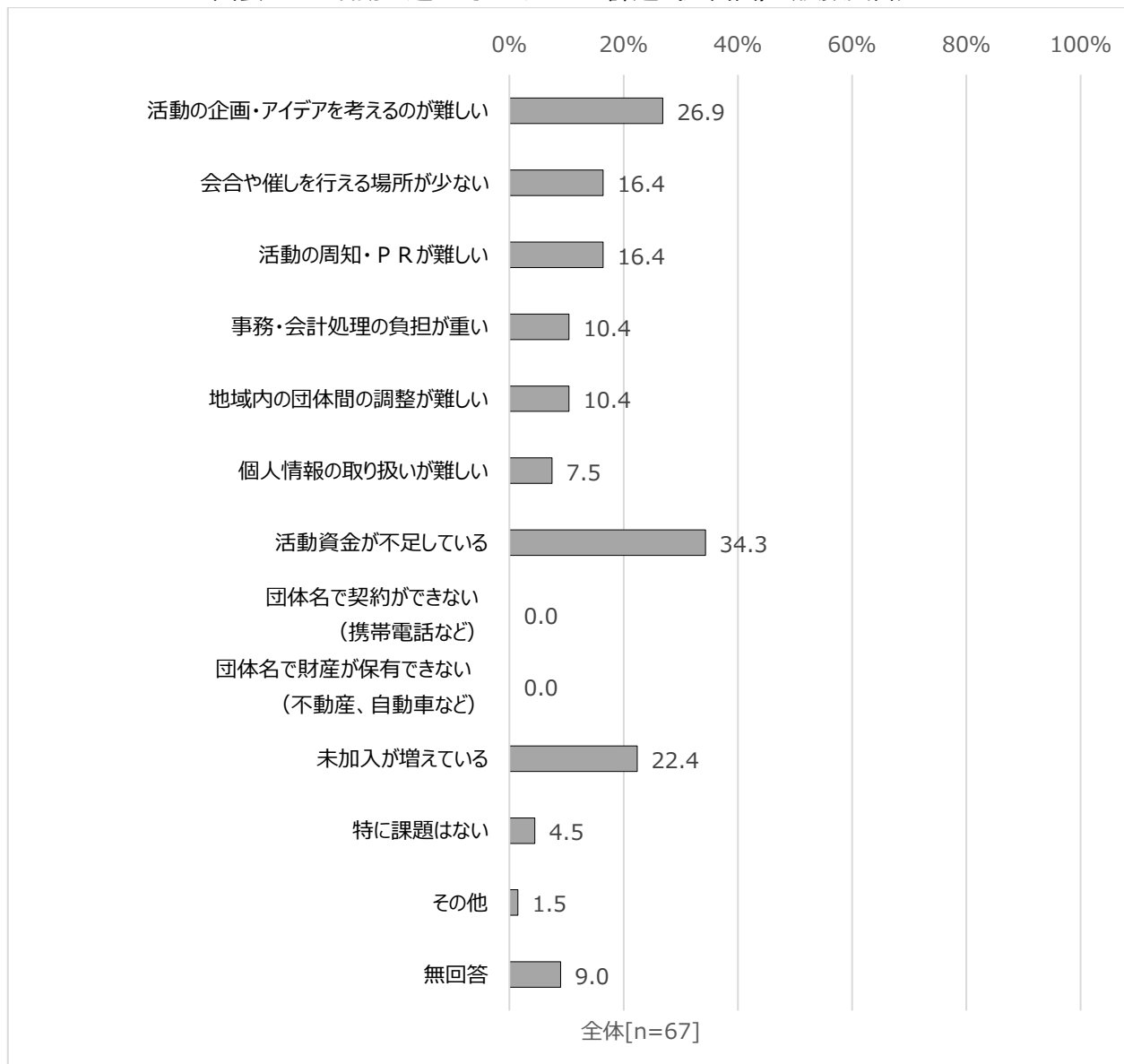
図表 22 活動を進めていくための課題（人材面）〔複数回答〕



② 活動を進めていくための課題（運営面）（問 18②）

活動を進めていくための課題（運営面）は、「活動資金が不足している」が34.3%と最も多く、次いで「活動の企画・アイデアを考えるのが難しい」が26.9%、「未加入が増えてきている」が22.4%などとなっている。

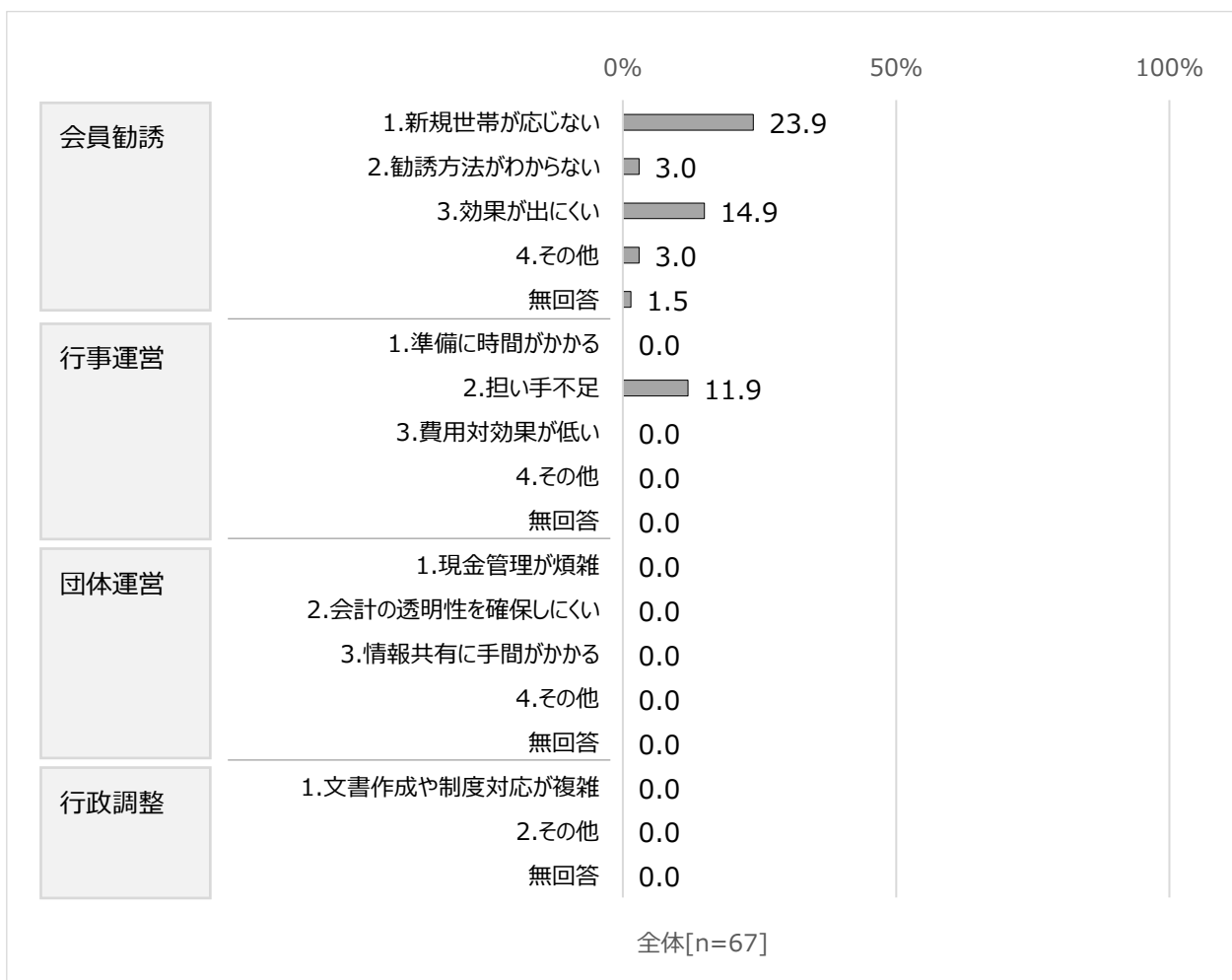
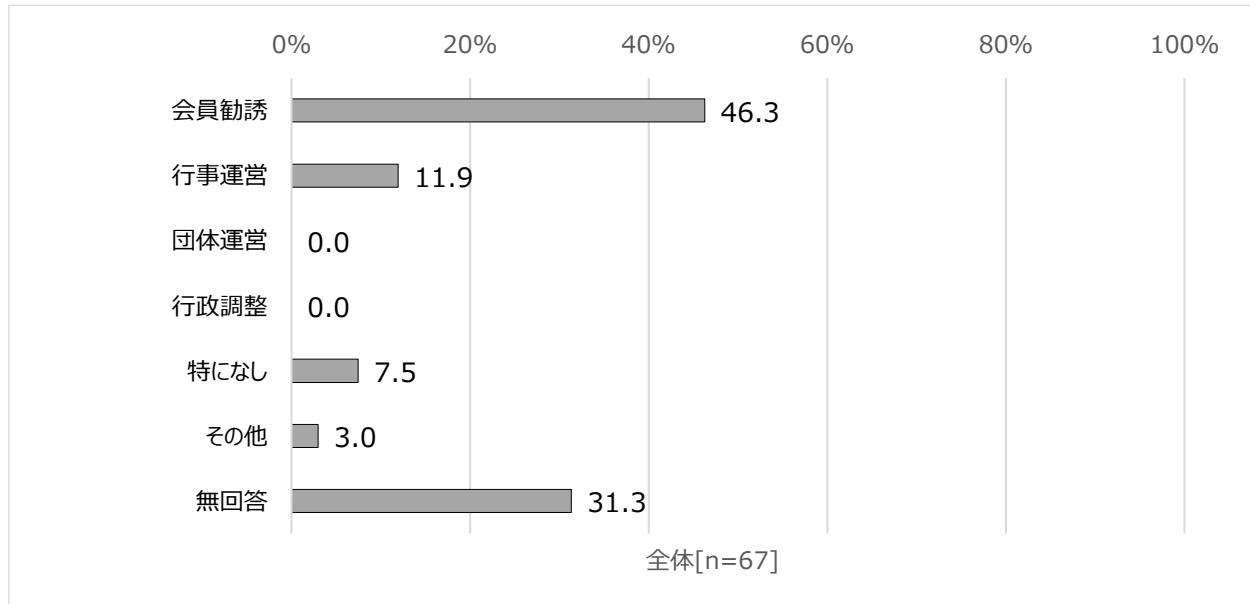
図表 23 活動を進めていくための課題（運営面）〔複数回答〕



③ 活役員や中心メンバーの業務負担（問 19）

活役員や中心メンバーの業務負担は、「会員勧誘1.新規世帯が応じない」が23.9%と最も多く、次いで「会員勧誘3.効果が出にくい」が14.9%などとなっている。

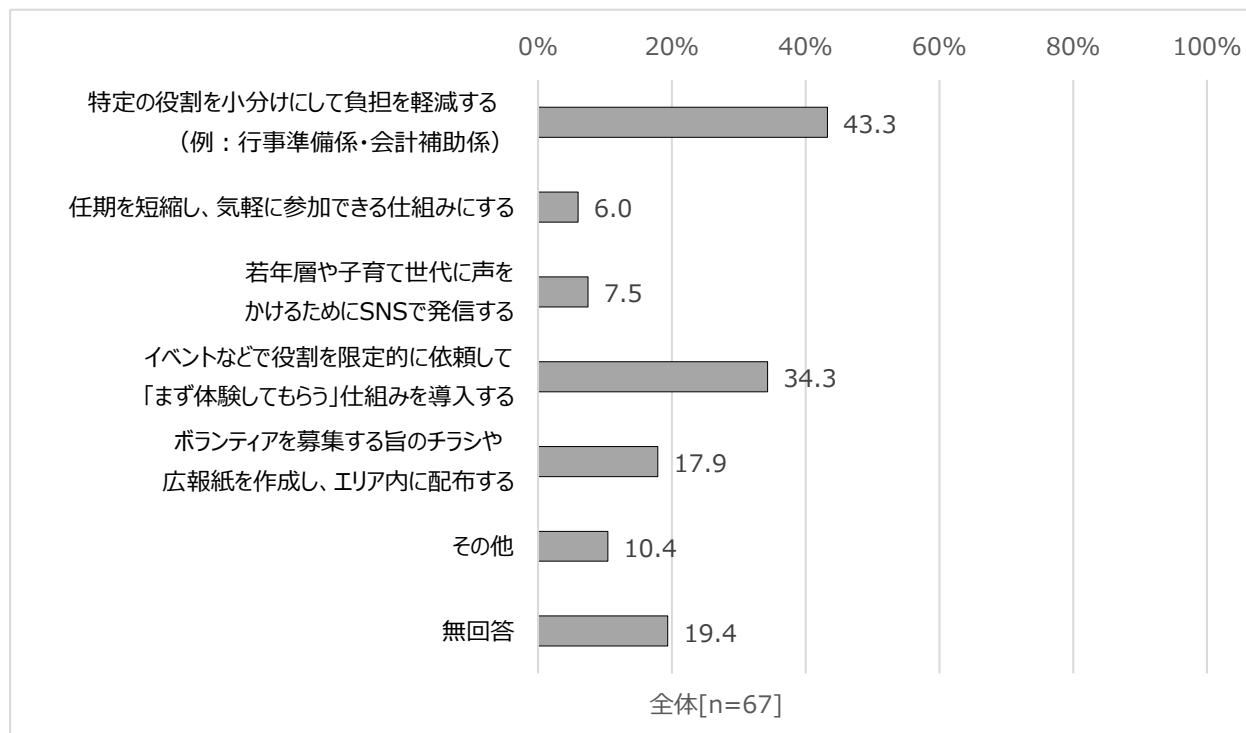
図表 24 活役員や中心メンバーの業務負担



④役員・スタッフの関与者を増やすためアディア（問 20）

役員・スタッフの関与者を増やすためアディアは、「特定の役割を小分けにして負担を軽減する」が 43.3%と最も多く、次いで「イベントなどで役割を限定的に依頼して「まず体験してもらう」仕組みを導入する」が 34.3%、「ボランティアを募集する旨のチラシや広報紙を作成し、エリア内に配布する」が 17.9%などとなっている。

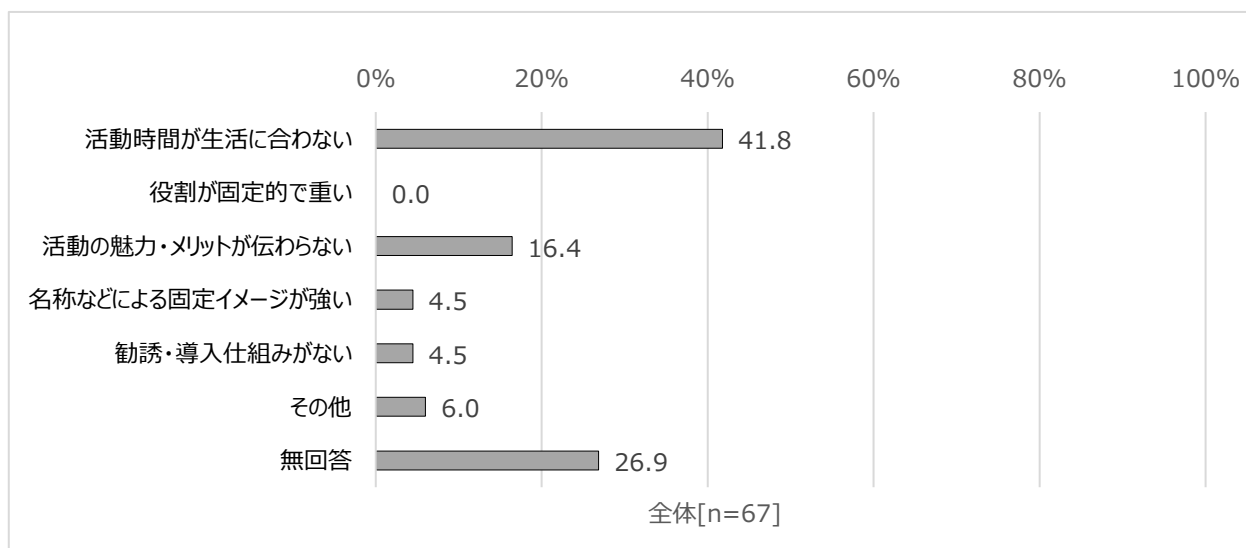
図表 25 役員・スタッフの関与者を増やすためアディア〔複数回答〕



⑤若年層が婦人会に参加しない最大の理由（問 21）

若年層が婦人会に参加しない最大の理由は、「活動時間が生活に合わない」が 41.8%と最も多く、「活動の魅力・メリットが伝わらない」が 16.4%などとなっている。

図表 26 若年層が婦人会に参加しない最大の理由



⑥若年層が婦人会に参加しない詳細な理由（問 21）

若年層が婦人会に参加しない詳細な理由は、次のような回答があげられた。

図 27 若年層が婦人会に参加しない詳細な理由

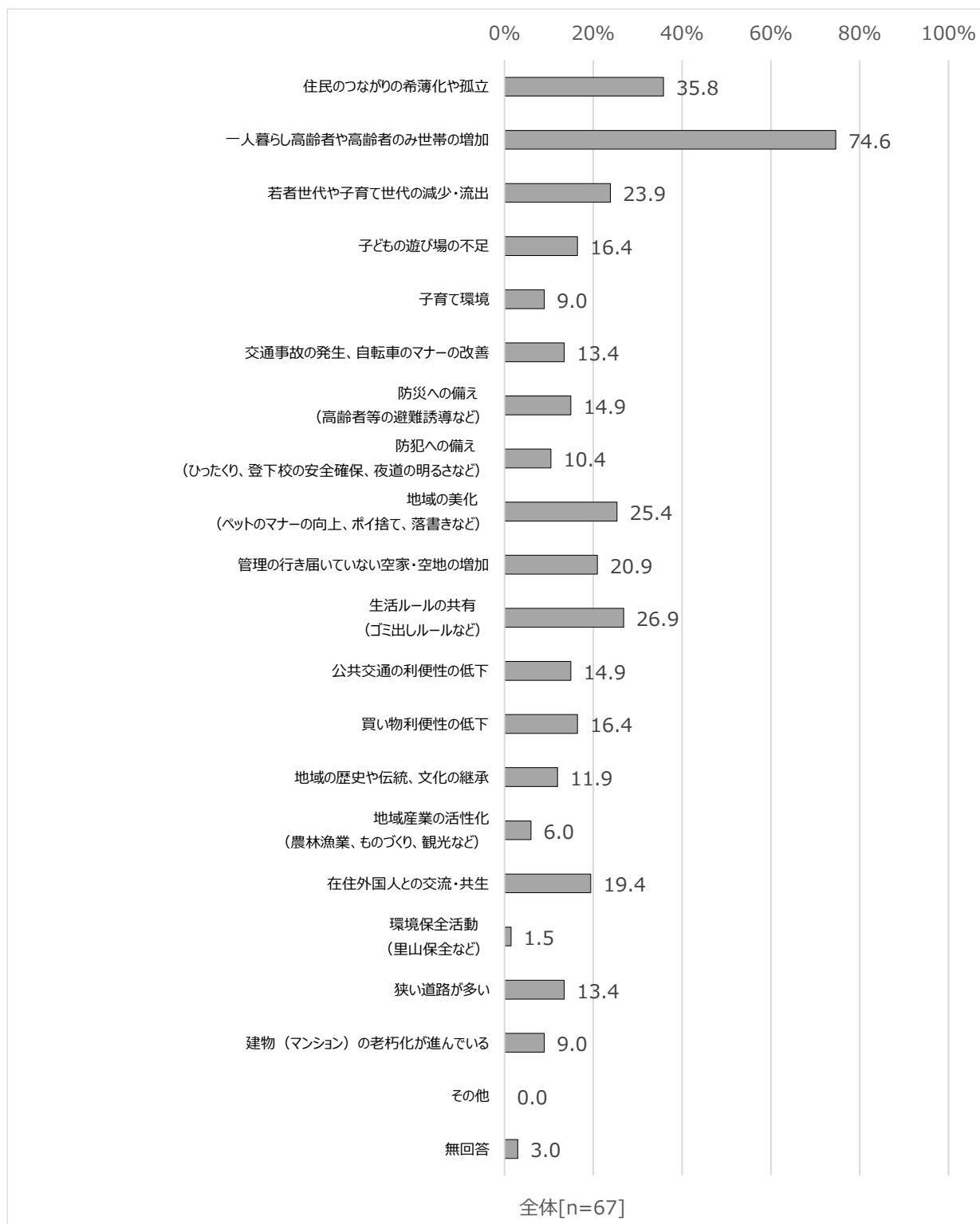
カテゴリ	若年層が婦人会に参加しない詳細な理由
時間・働き方に関する課題	共働き・就労者が多く、活動に参加する時間がない
	平日昼間や夜の会合など、活動時間帯が合わない
	仕事・家事・育児・子どもの習い事などで余裕がない
	生活や家庭で手一杯で地域活動まで手が回らない
メリット・価値の不足	参加するメリットが感じられない
	無償ボランティアであり、負担に対する見返りがない
	若年層は金銭的・合理的な価値観が強く、優先順位が低い
	「魅力がない」と感じられている
組織・運営の問題	役割が固定化されており、新規参加者が入りづらい
	役員就任などの負担が大きい（やらされ感）
	動員型の活動が多く、自主性が感じられない
	古い体制・慣習が残っている
イメージ・名称の問題	「婦人会」という名称が古く、時代に合っていない
	シニア世代の集まりというイメージが強い
	若い世代にとって心理的ハードルが高い
認知・関心の低さ	婦人会の存在自体を知らない人が多い
	ボランティアや地域活動への関心が低い
	団体に所属すること自体を敬遠する傾向
社会的価値観の変化	個人や家庭を優先する価値観の広がり
	地域とのつながりが希薄になっている
	働く女性の増加により従来型の参加モデルが合わない
その他の心理的ハードル	活動内容は魅力的でも「踏み込みづらい」雰囲気がある
	団体活動への抵抗感（人間関係・しがらみへの懸念）

(6) 団体が活動している地域の状況等

① 活動している地域の課題（問 22）

活動している地域の課題は、「一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加」が74.6%と最も多く、次いで「住民のつながりの希薄化や孤立」が35.8%、「生活ルールの共有（ゴミ出しルールなど）」が26.9%などとなっている。

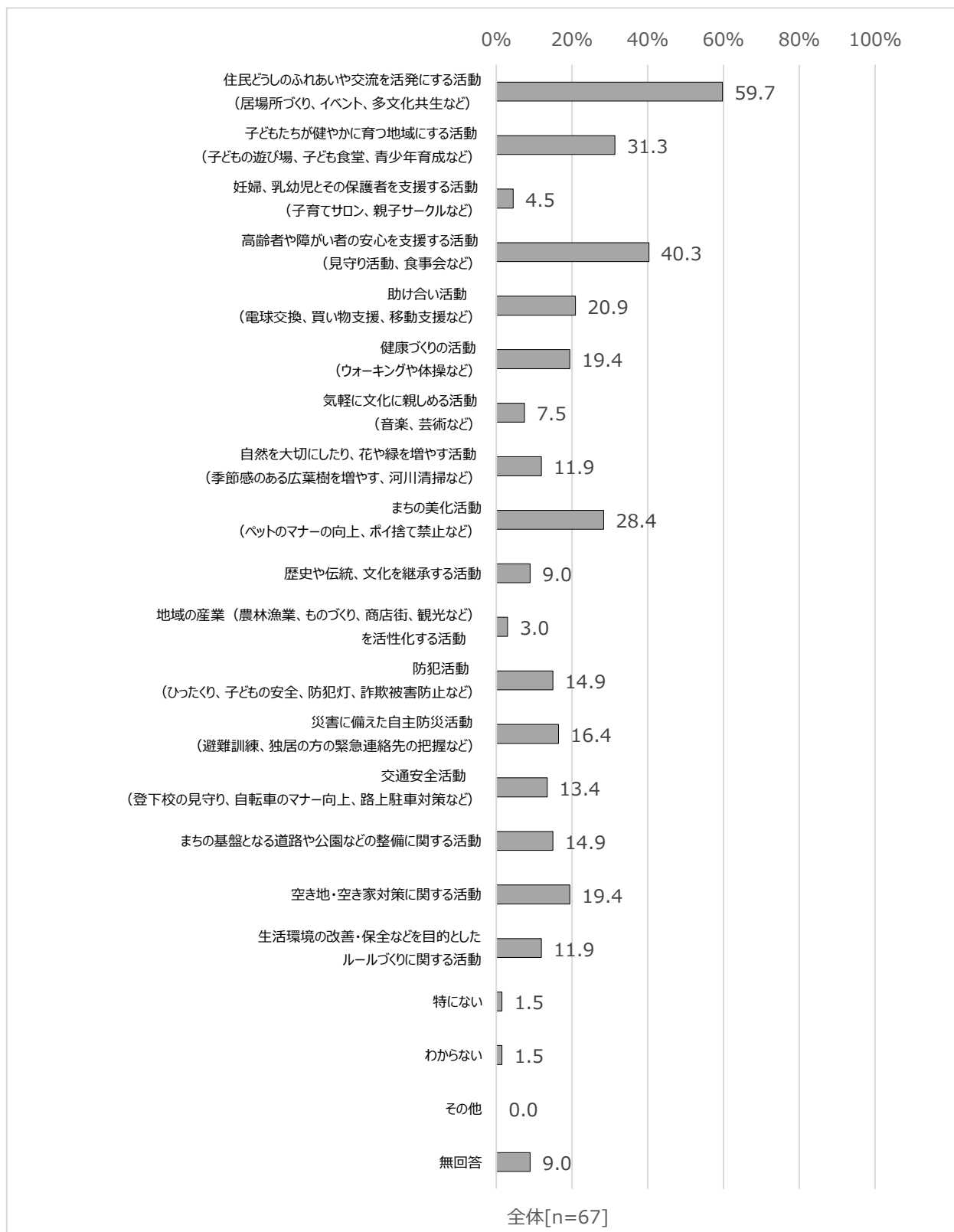
図表 28 活動している地域の課題〔複数回答〕



②課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問 23）

課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なことは、「住民どうしのふれあいや交流を活発にする活動（居場所づくり、イベント、多文化共生など）」が59.7%と最も多く、次いで「高齢者や障がい者の安心を支援する活動（見守り活動、食事会など）」が40.3%、「子どもたちが健やかに育つ地域にする活動（子どもの遊び場、子ども食堂、青少年育成など）」が31.3%などとなっている。

図表 29 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと〔複数回答〕

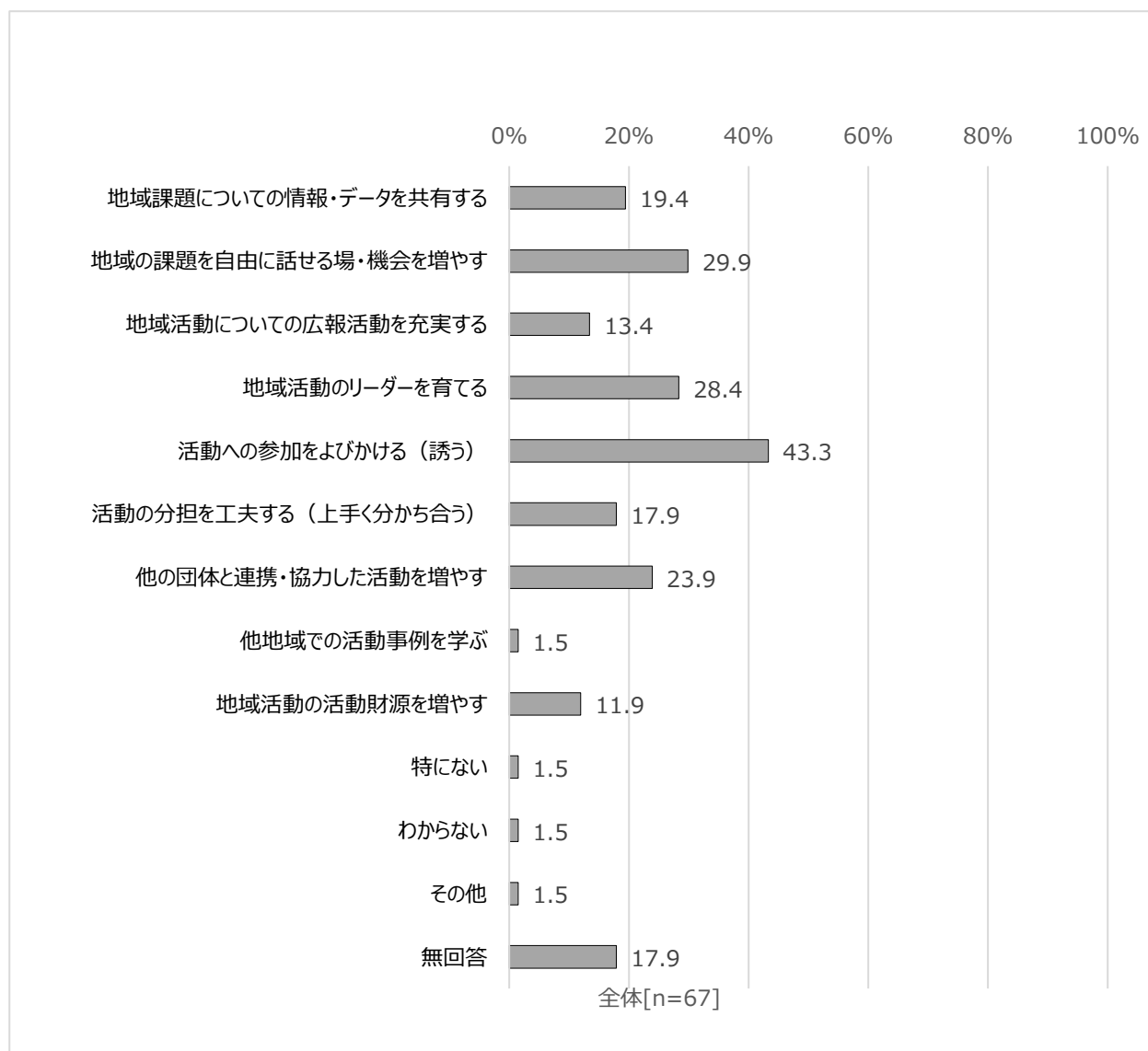


(7) 今後の活動に向けて

① 団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問 24）

団体の活動を活発にしていくために必要なことは、「活動への参加をよびかける（誘う）」が44.3%と最も多く、次いで「地域の課題を自由に話せる場・機会を増やす」が29.9%、「地域活動のリーダーを育てる」が28.4%などとなっている。

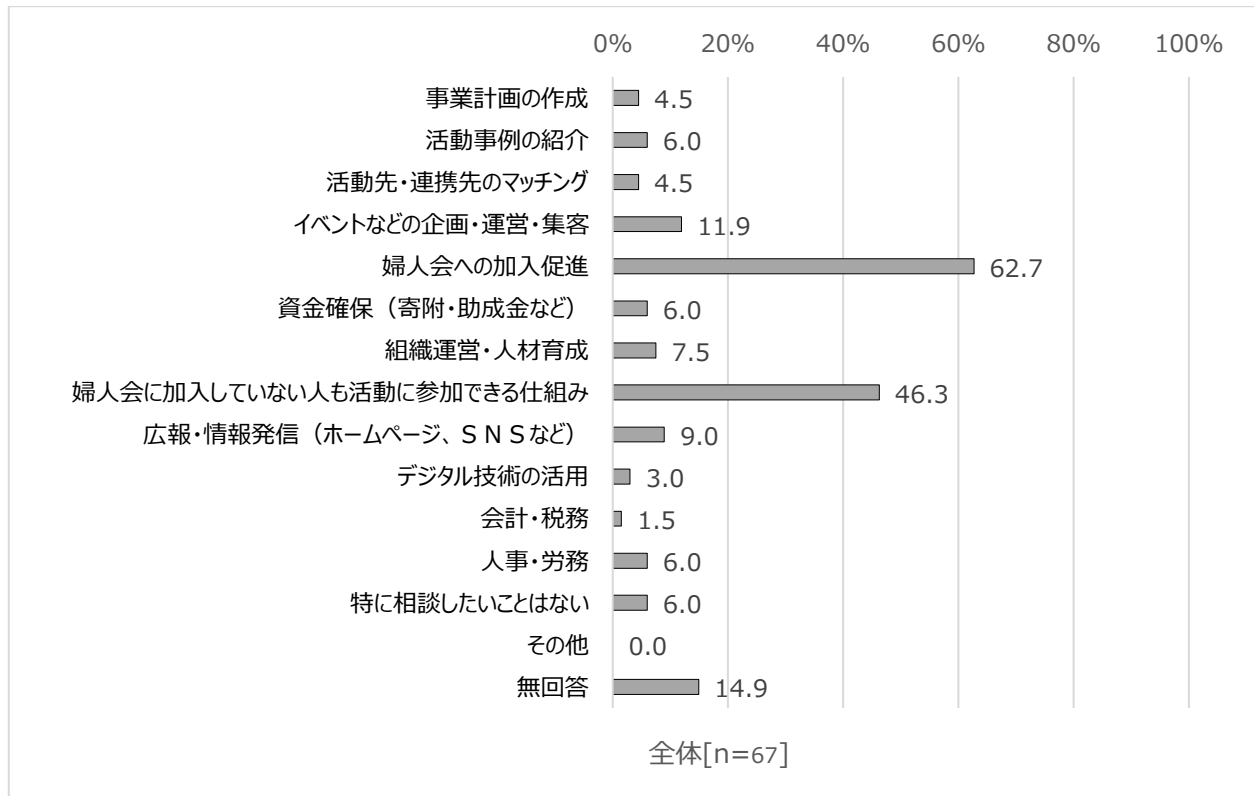
図表 30 団体の活動を活発にしていくために必要なこと〔複数回答〕



② 市に相談したいことや支援を希望すること（問 25）

市に相談したいことや支援を希望することは、「婦人会への加入促進」が62.7%と最も多く、次いで「婦人会に加入していない人も活動に参加できる仕組み」が46.3%、「イベントなどの企画・運営・集客」が11.9%などとなっている。

図表 31 市に相談したいことや支援を希望すること〔複数回答〕

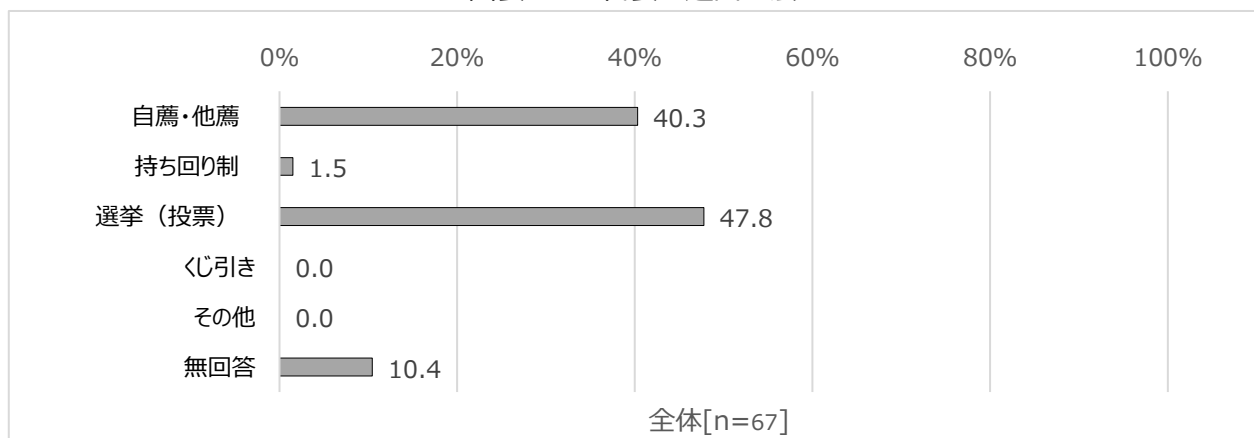


(8) 代表の活動状況

① 代表の選出方法（問 26）

代表の選出方法は、「選挙（投票）」が47.8%と最も多く、次いで「自薦・他薦」が40.3%などとなっている。

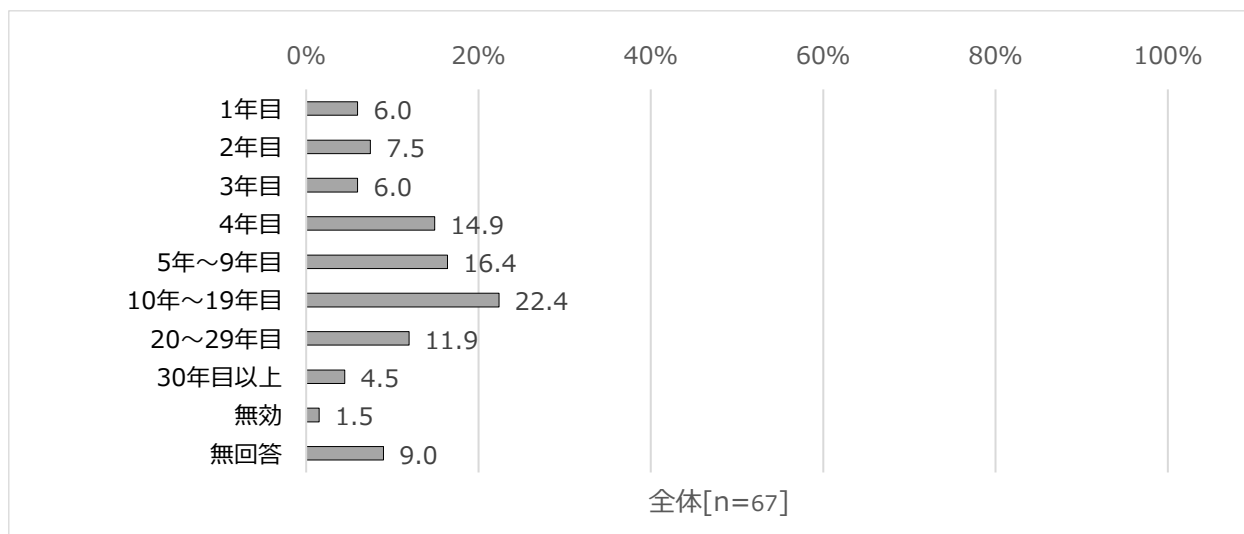
図表 32 代表の選出方法



② 代表になってからの年数（問 27）

代表になってからの年数は、「10～19年目」が22.4%と最も多く、次いで「5年～9年目」が16.4%「4年目」が14.9%などとなっている。

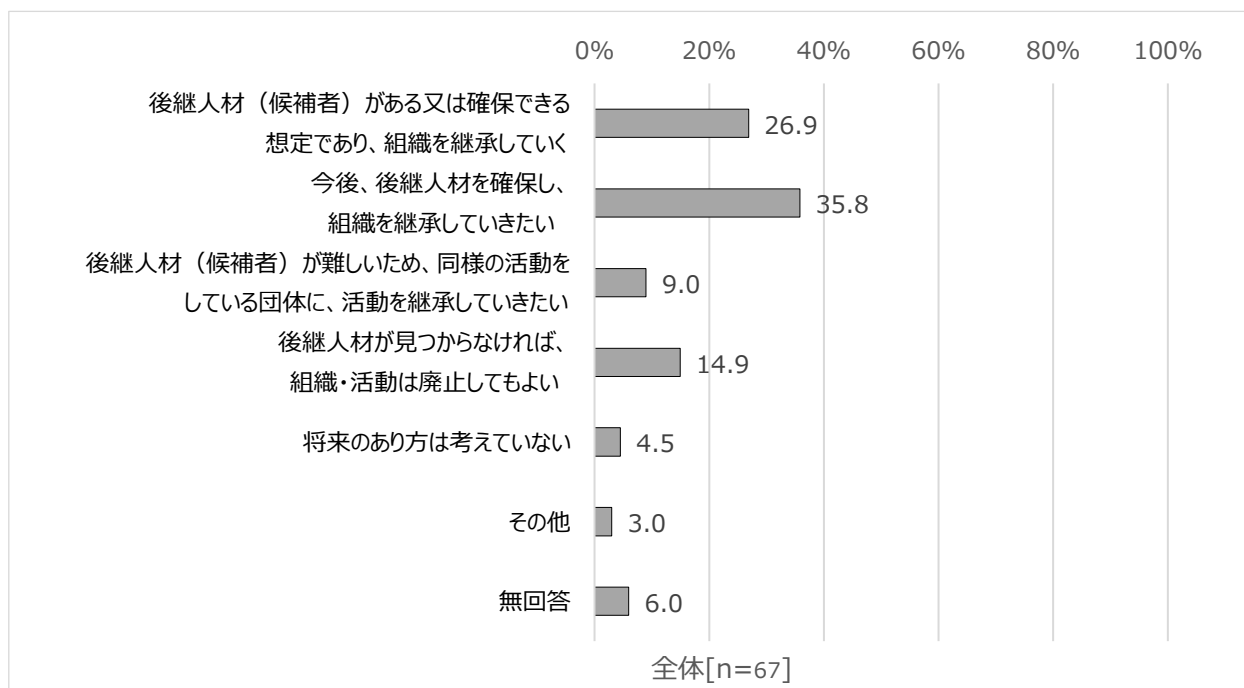
図表 32 代表になってからの年数



③ 団体の今後のあり方についての考え（問 28）

団体の今後のあり方についての考えは、「今後、後継人材を確保し、組織を継承していきたい」が35.8%と最も多く、次いで「想定している後継人材（候補者）に組織を継承していきたい」が26.9%、「後継人材が見つからなければ、組織・活動は廃止してもよい」が14.9%などとなっている。

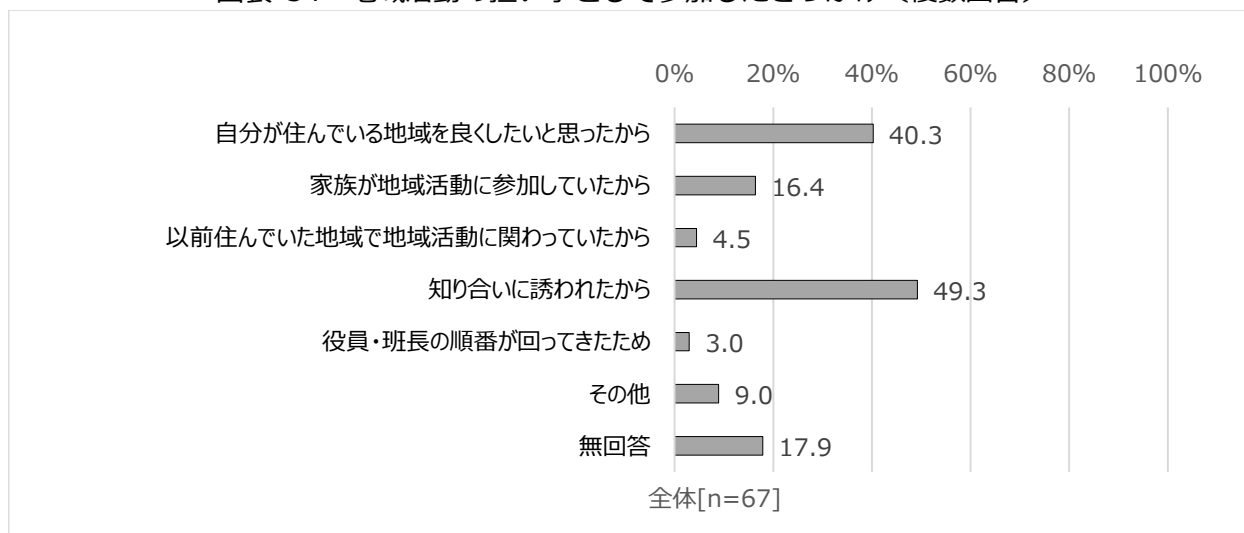
図表 33 団体の今後のあり方についての考え



④ 地域活動の担い手として参加したきっかけ（問 29）

地域活動の担い手として参加したきっかけは、「知り合いに誘われたから」が49.3%と最も多く、次いで「自分が住んでいる地域を良くしたいと思ったから」が40.3%、「家族が地域活動に参加していたから」が16.4%などとなっている。

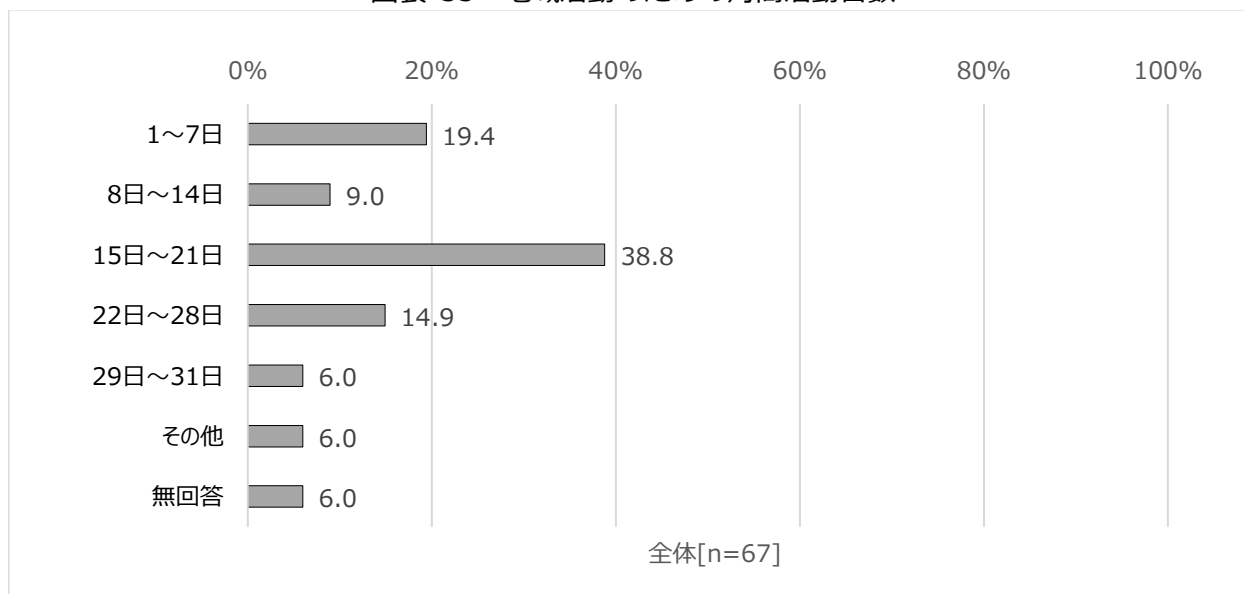
図表 34 地域活動の担い手として参加したきっかけ〔複数回答〕



⑤ 地域活動のための月間活動日数（問 30）

地域活動のための月間活動日数は、「15～21日」が38.8%と最も多く、次いで「1～7日」が19.4%、「22日～28日」が14.9%などとなっている。

図表 35 地域活動のための月間活動日数

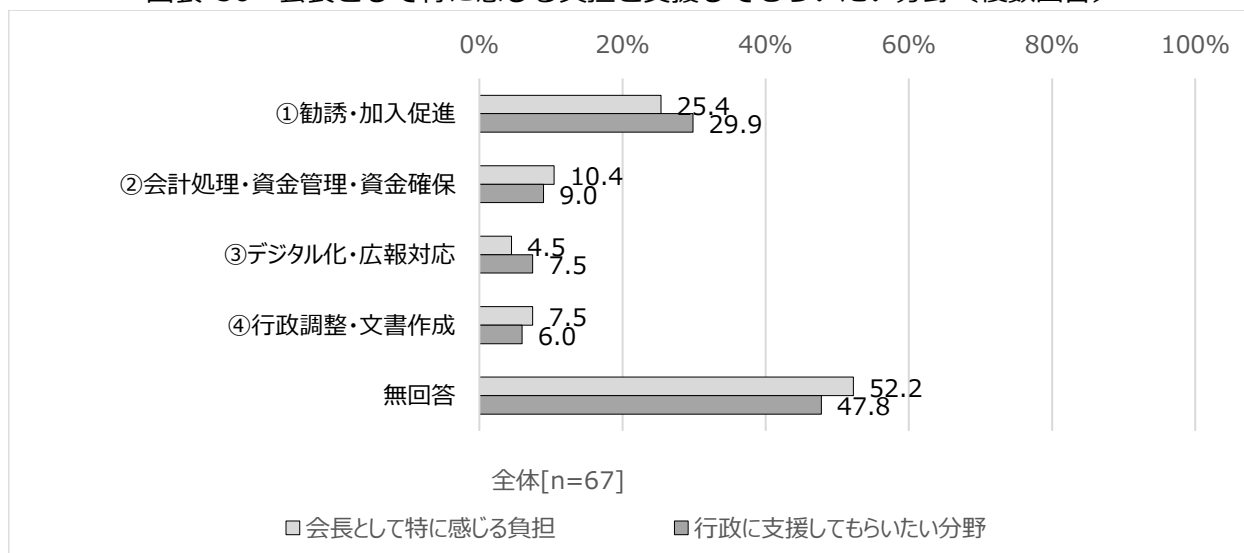


⑥ 会長として特に感じる負担と行政に支援してもらいたい分野（問 31）

会長として特に感じる負担は、「勧誘・加入促進」が25.4%と最も多く、次いで「会計処理・資金管理・資金確保」が10.4%、「行政調整・文書作成」が7.5%などとなっている。

行政に支援してもらいたい分野は「勧誘・加入促進」が29.9%と最も多く、次いで「会計処理・資金管理・資金確保」が9.0%、「デジタル化・広報対応」が7.5%などとなっている。

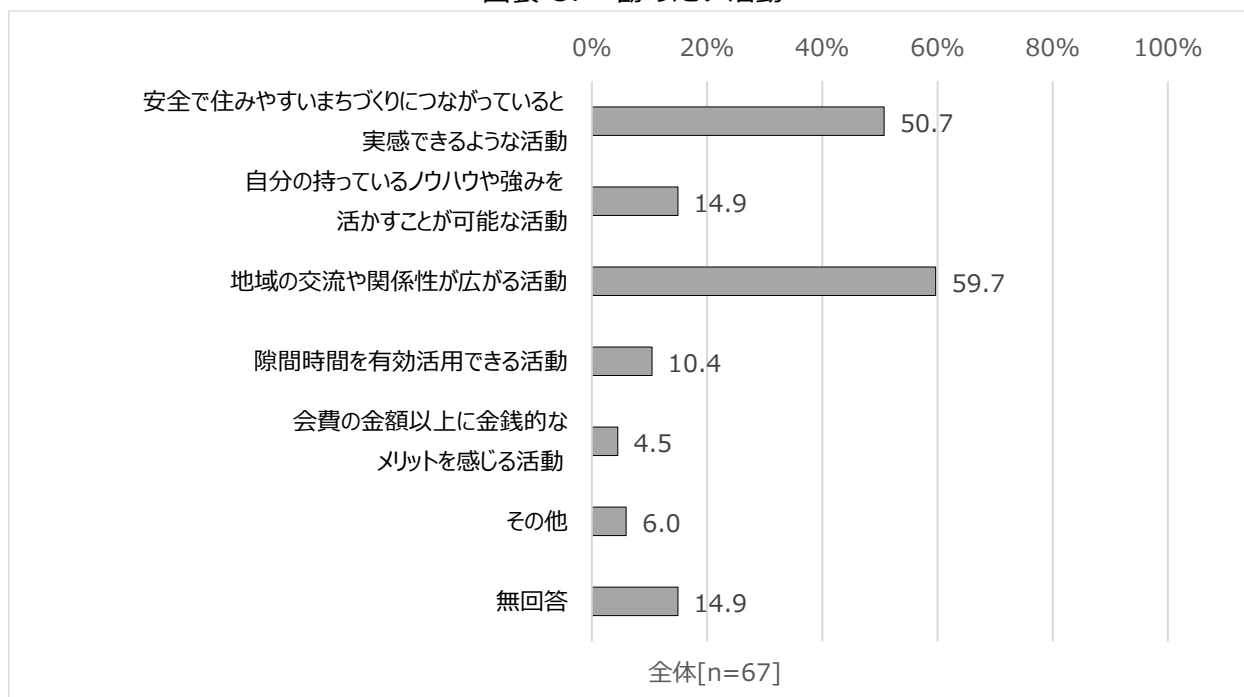
図表 36 会長として特に感じる負担と支援してもらいたい分野〔複数回答〕



⑦ 他団体や地域住民に勧めたい活動（問 32）

他団体や地域住民に勧めたい活動は、「地域の交流や関係性が広がる活動」が59.7%と最も多く、次いで「安全で住みやすいまちづくりにつながっていると実感できるような活動」が50.7%、「自分の持っているノウハウや強みを活かすことが可能な活動」が14.9%などとなっている。

図表 37 勧めたい活動

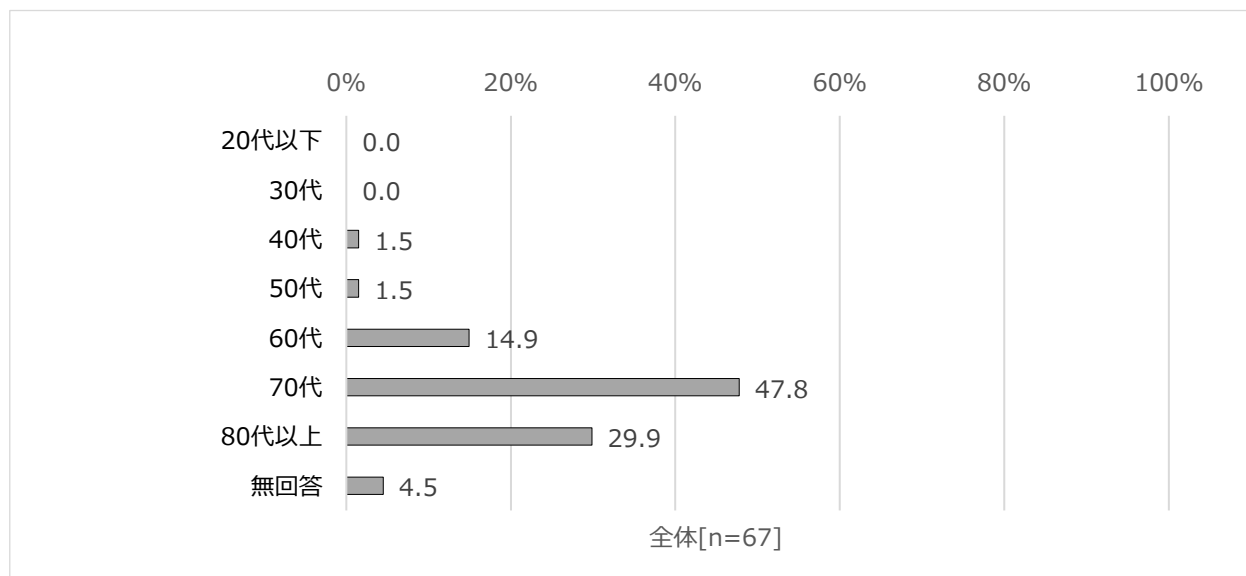


(9) 代表の状況

① 代表（回答者）の状況-年代（問 33）

年代は、「70代」が47.8%と最も多く、次いで「80代以上」が29.9%、「60代」が14.9%などとなっている。

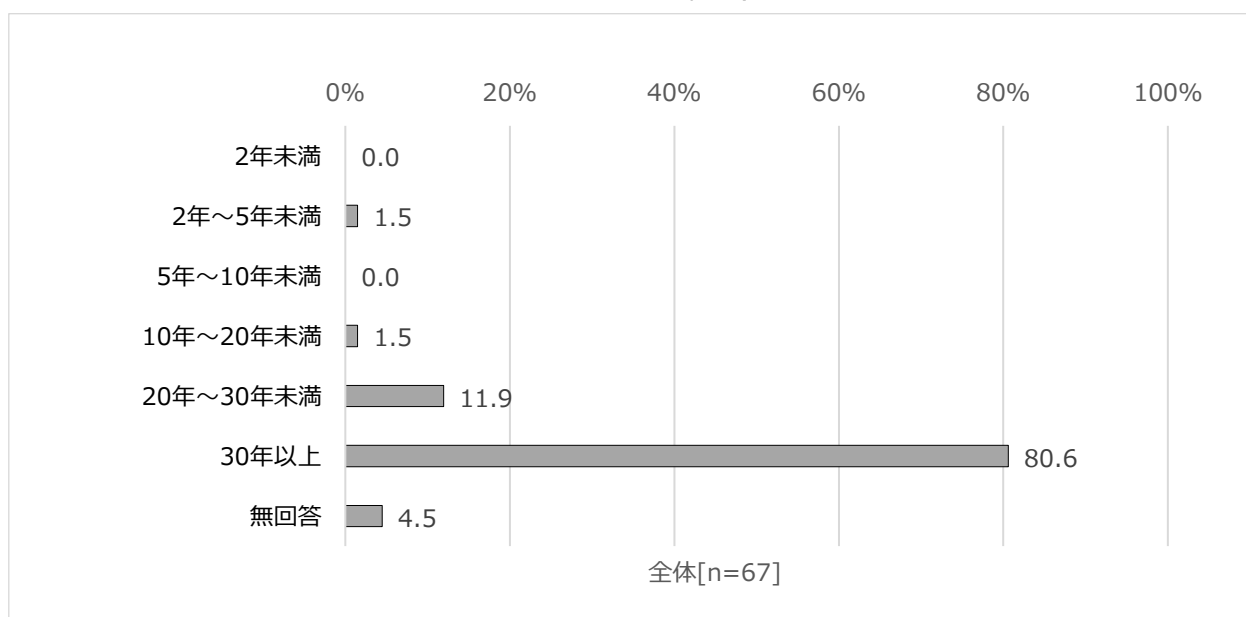
図表 38 年代



② 代表（回答者）の状況-現在の地域（小学校区）での居住年数（問 33）

現在の地域（小学校区）での居住年数は、「30年以上」が80.6%と最も多く、次いで「20年～30年未満」が11.9%などとなっている。

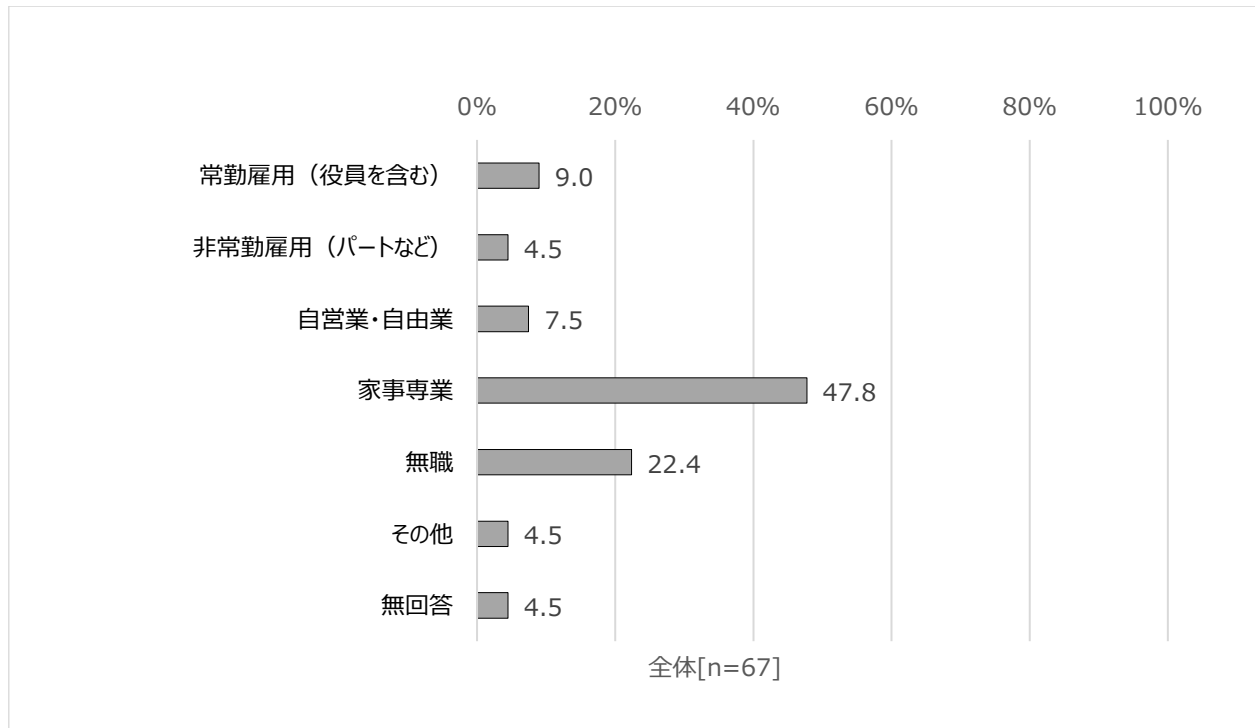
図表 39 現在の地域（小学校区）での居住年数



③代表（回答者）の状況-就業状況（問 33）

就業状況は、「家事専業」が47.8%と最も多く、次いで「無職」が22.4%、「常勤雇用（役員を含む）」が9.0%などとなっている。

図表 40 就業状況



(10) 自由意見（その他）

① 主な収入源（問 4）

区分	主なご意見
資源回収・環境活動	・ 資源回収・古紙回収 ・ エコタウン活動に伴うバザー
広告	・ 広告収入
公的支援	・ 自治会より活動費として受領 ・ 広報神戸の配布料の一部入金

②実施している活動/休止している活動/今後力を入れたい活動（問 7）

区分	主なご意見
実施活動	・ 月に一回の会報発行/外国人留学生との交流会/外国人との交流 ・ 児童の登下校時の見守り/ファミリーサポート（相互助け合い） ・ 子ども向けイベントの開催
休止活動	・ 盆踊り大会/臼/杵での餅搗き会
今後力を入れたい活動	・ 中高生への居場所づくり

③ デジタル技術の活用状況と今後の活用意向（問 9）

区分	主なご意見
活用状況	・ 年齢が高いが、少しずつ若い人が入って来ている 役員が若い方になると必要になる
活用意向	質問に対する有効な回答はなかった

④地域住民が活動に参加するメリット（問 17）

区分	主なご意見
貢献意識	・ 社会貢献であることの認識

⑤ 活動を進めていくための課題（運営面）（問 18②）

区分	主なご意見
参加姿勢	・ 婦人会より個人優先

⑥ 活役員や中心メンバーの業務負担（問 19）

区分	主なご意見
会員勧誘	・ 活動時間 ・ 高齢化が進み、参加者が大幅減

⑦ 役員・スタッフの関与者を増やすためアディア（問 20）

区分	主なご意見
体制の見直し	・ 役員の定年制を希望 ・ 任期を短縮しても後任がないという現状認識 ・ 多忙で関われない人が多いという認識
声掛け	・ 口コミや知人同士のつながりによる勧誘 ・ 行事や奉仕活動を「婦人会中心」ではなく、町民会全体として声かけ

⑧ 活動している地域の課題（問 22）

区分	主なご意見
担い手不足	・ 新しいマンションも多く民家減少 ・ 地域活動の担い手不足
インフラ	・ 私道街灯の維持管理

⑨ 課題解決のために今後力を入れて取り組むことが必要なこと（問 23）

区分	主なご意見
インフラ	・ コミュニティ交通の実現

※下記質問では、有効な回答はなかった。

団体の活動頻度（問 6）

デジタル技術活用のために参加したい講習会（問11）

活動を進めていくための課題（人材面）（問18①）

団体の活動を活発にしていくために必要なこと（問24）

市に相談したいことや支援を希望すること（問25）

代表の選出方法（問26）

団体の今後のあり方についての考え（問28）

⑪地域活動の担い手として参加したきっかけ（問29）

調査票

■ 令和 7 年度 神戸市内地域組織基礎調査

婦人会 調査結果報告書

(連絡先)

神戸市地域協働局地域活性課 (神戸市内地域組織基礎調査 担当)

電話 : 078-322-6492 (内線 900-2274) FAX : 078-322-6133

電子メール chiiki_kikaku@city.kobe.lg.jp

(調査委託先) 有限責任監査法人トーマツ